

司法試験予備試験に関するアンケート調査結果

法 務 省

1. 目的・趣旨

第69期司法修習生（修習期間：平成27年11月27日～平成28年12月14日）を対象に司法試験予備試験（以下「予備試験」という。）に関するアンケート調査を実施し、調査を通じて得たデータを収集・分析することによって、予備試験の受験状況の実態等を把握し、今後の施策の検討に活用することを目的とする。

2. 調査方法等

I. 対象範囲

第69期司法修習生（1,785名）

II. 調査方法

司法研修所の協力の下、調査票を配布し、回答を収集

III. アンケート項目

別添のとおり

3. 調査実施期間

平成28年9月21日（水）～11月2日（水）

4. 回答率等

調査票配布数：1,785

回答総数：1,178

有効回答数：1,171（※）

無効（白紙回答）：7

回答率：約65.6%

（※）一部の設問に対する未回答又は無効回答があったものを含む。また、各設問の合計回答数には、当該設問に対する未回答数又は無効回答数は含まない。

目 次

第 1 回答者の属性

1 年齢	1
2 性別	1
3 司法試験合格時の資格	2

第 2 法科大学院修了資格による司法試験合格者の予備試験の受験状況等

1 未修・既修の別	3
2 法科大学院を修了した年月	3
3 司法試験に合格した年	4
4 予備試験受験の有無	5
5 予備試験の受験回数	6
6 予備試験の受験時期	7
7 予備試験を受験した理由	10

第 3 予備試験合格資格による司法試験合格者の予備試験の受験状況等

1 予備試験受験時の職業等	13
2 予備試験受験時以前の社会人経験	13
3 最終学歴	14
(1) 最終学歴を「大学中退」又は「大学卒業」と回答した者が在籍していた学部	14
(2) 最終学歴を「法科大学院中退」と回答した者の経歴	
ア 未修・既修の別	15
イ 法科大学院を中退した年月	15
(3) 最終学歴を「法科大学院修了」と回答した者の経歴	
ア 未修・既修の別	16
イ 法科大学院を修了した年月	16
4 予備試験及び司法試験に合格した年	17
5 予備試験の受験回数	17
6 予備試験の受験時期	18
7 予備試験を受験した理由	19

参考 1 予備試験受験時に法科大学院に在籍していた者の予備試験の受験状況等

1 未修・既修の別	2 0
2 予備試験の受験回数	2 0
3 予備試験の受験時期	2 1
4 予備試験を受験した理由	2 2

参考 2 予備試験受験時に法科大学院に在籍していなかった者の予備試験の受験状況等

1 予備試験の受験回数	2 3
2 予備試験の受験時期	2 4
3 予備試験を受験した理由	2 5

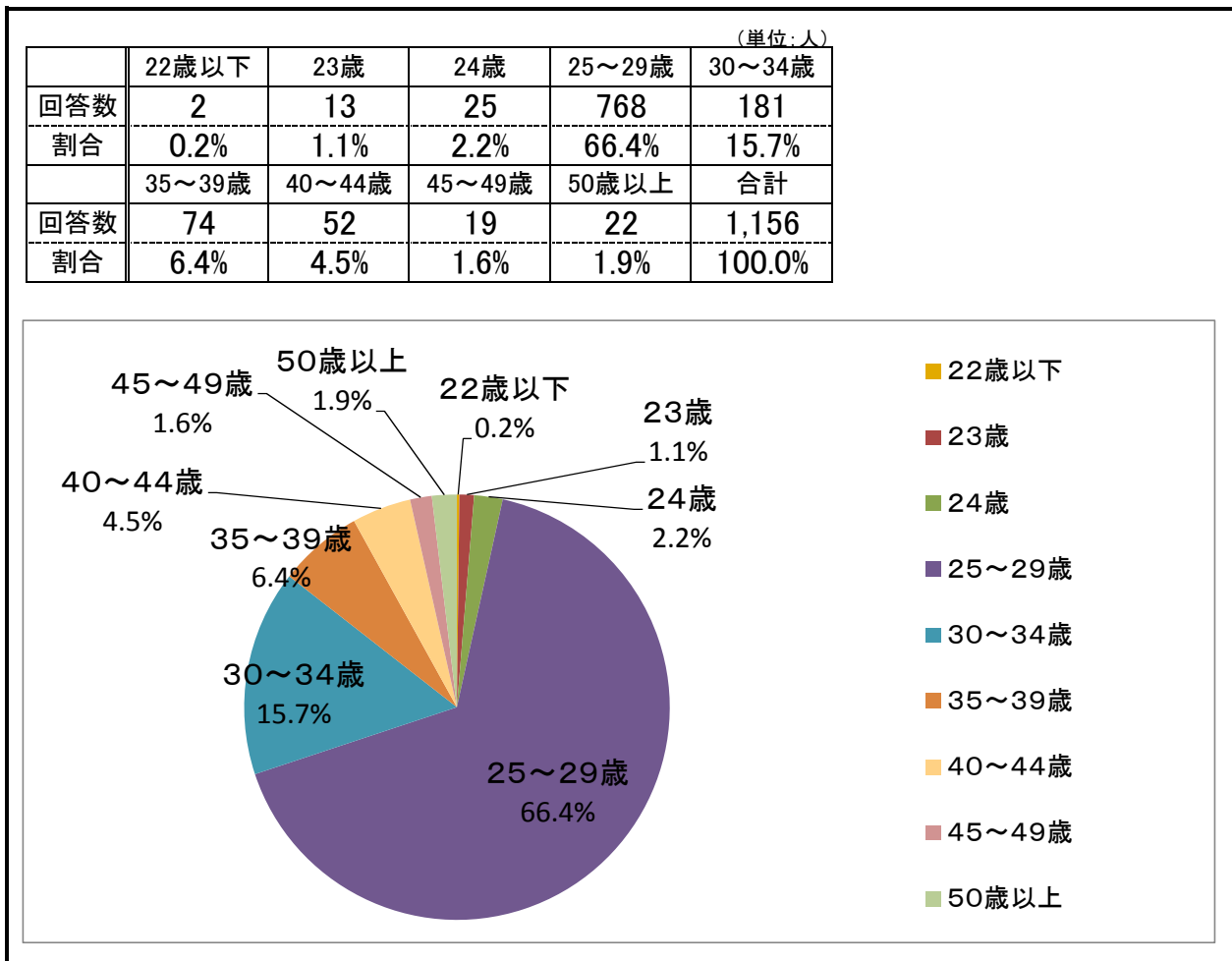
付録 2 6

(参考資料)

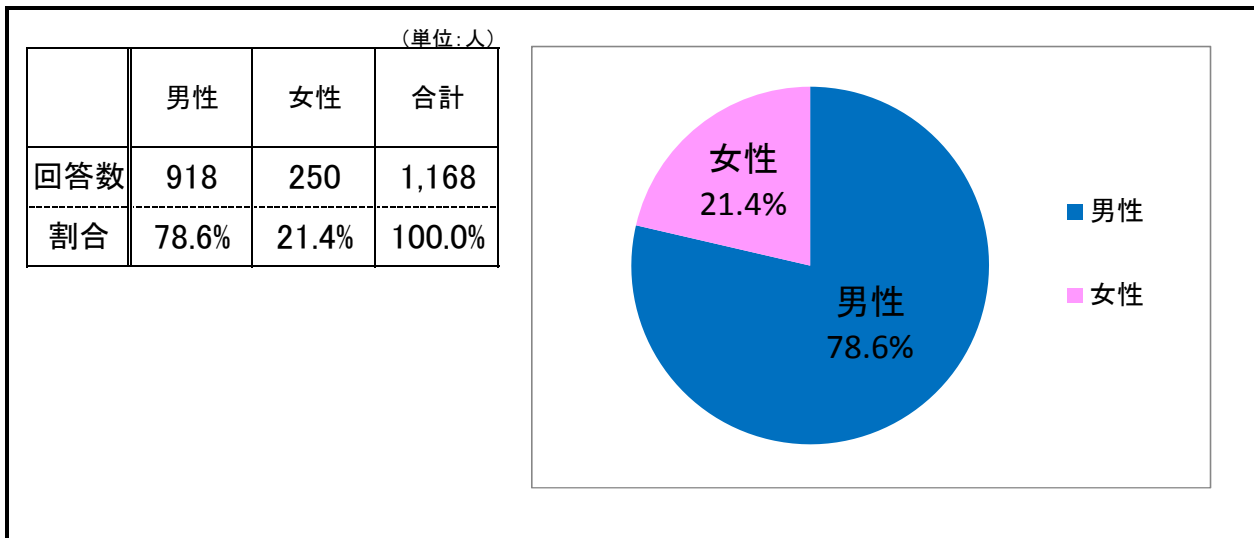
司法試験予備試験に関するアンケート	2 7
-------------------	-----

第1 回答者の属性

1 年齢



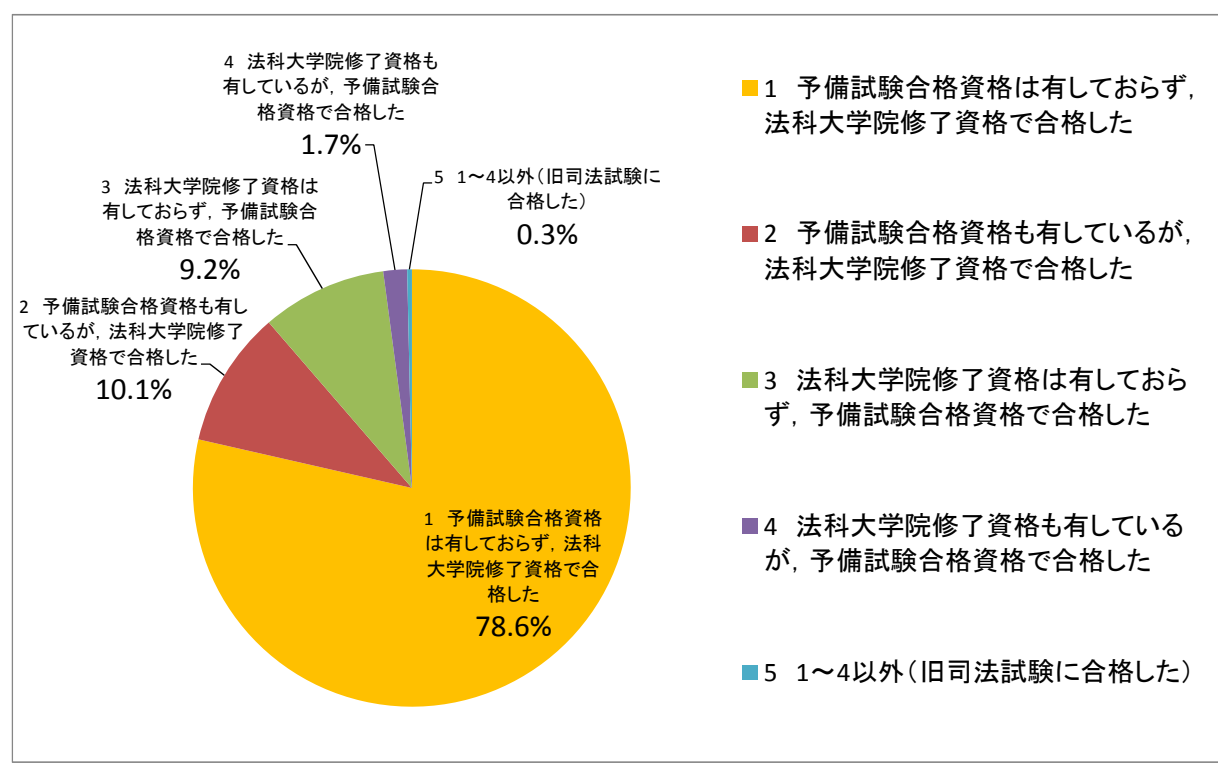
2 性別



3 司法試験合格時の資格

(単位:人)

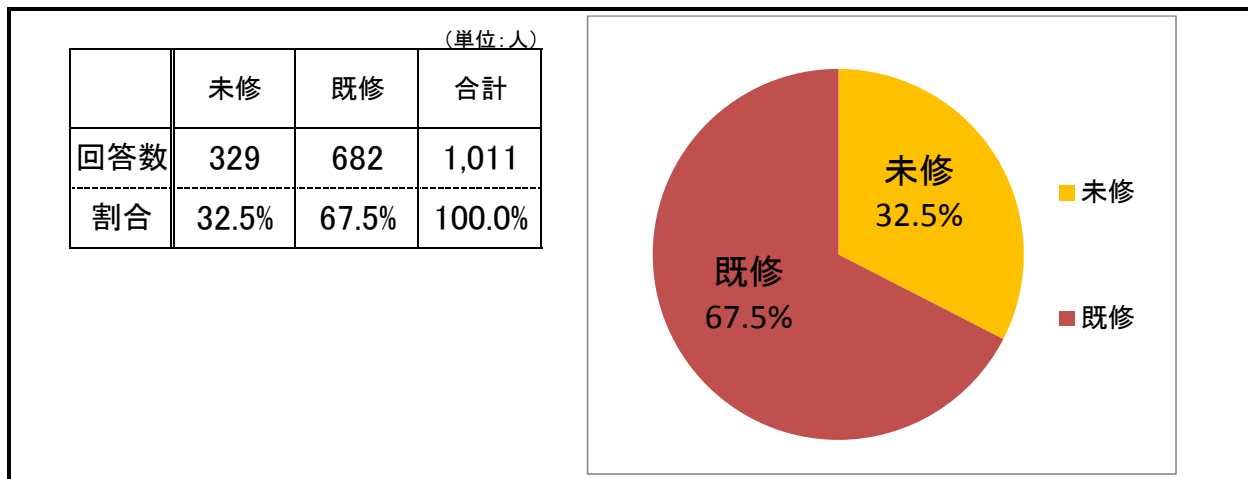
	1 予備試験合格資格は有しておらず、法科大学院修了資格で合格した	2 予備試験合格資格も有しているが、法科大学院修了資格で合格した	3 法科大学院修了資格は有しておらず、予備試験合格資格で合格した	4 法科大学院修了資格も有しているが、予備試験合格資格で合格した	5 1～4以外(旧司法試験に合格した)	合計
回答数	902	116	106	20	4	1,148
割合	78.6%	10.1%	9.2%	1.7%	0.3%	100.0%



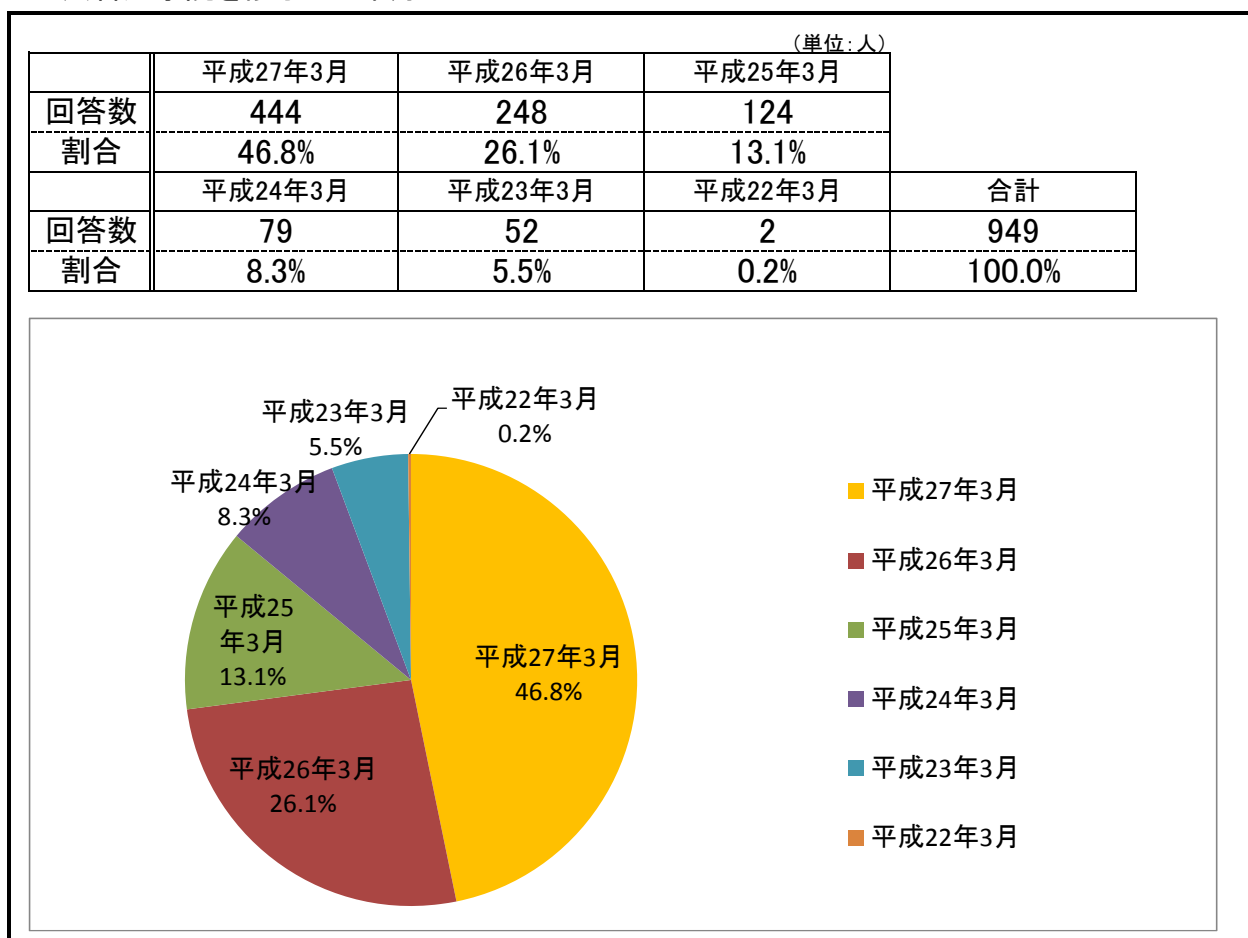
第2 法科大学院修了資格による司法試験合格者^(※)の予備試験の受験状況等

(※) 第1の3「司法試験合格時の資格」において、「1 予備試験合格資格は有しておらず、法科大学院修了資格で合格した」又は「2 予備試験合格資格も有しているが、法科大学院修了資格で合格した」と回答した者

1 未修・既修の別



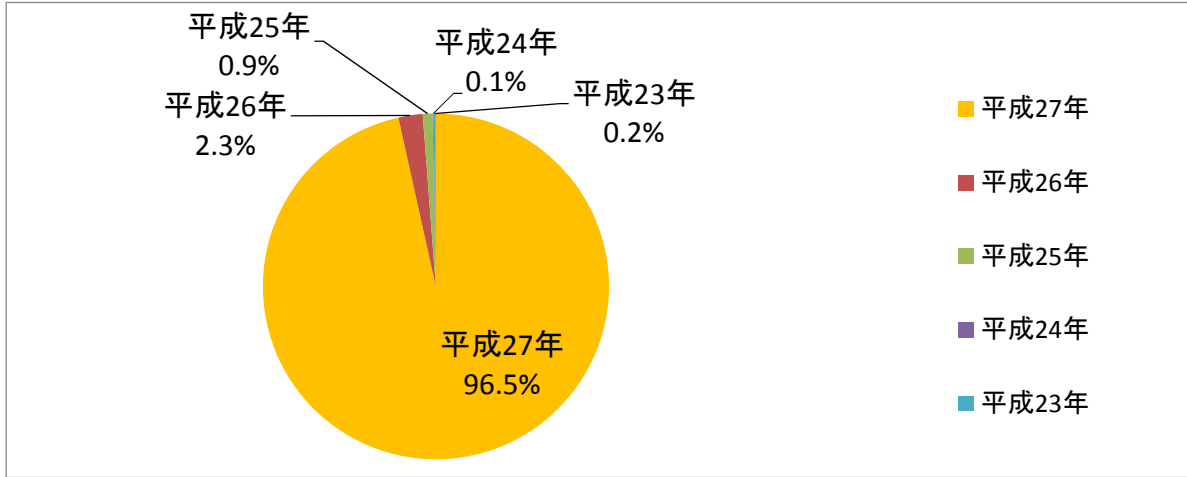
2 法科大学院を修了した年月



3 司法試験に合格した年

(単位:人)

	平成27年	平成26年	平成25年	平成24年	平成23年	合計
回答数	937	22	9	1	2	971
割合	96.5%	2.3%	0.9%	0.1%	0.2%	100.0%

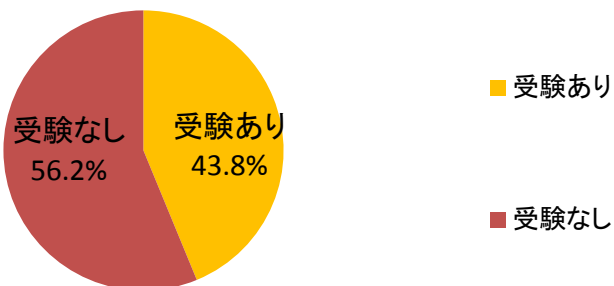


4 予備試験受験の有無

(単位:人)

全体	受験あり	受験なし	合計
回答数	441	566	1,007
割合	43.8%	56.2%	100.0%

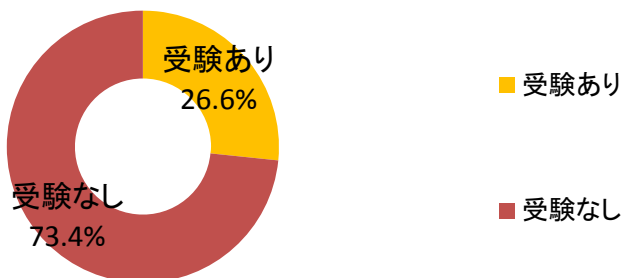
全体



(単位:人)

未修者	受験あり	受験なし	合計
回答数	87	240	327
割合	26.6%	73.4%	100.0%

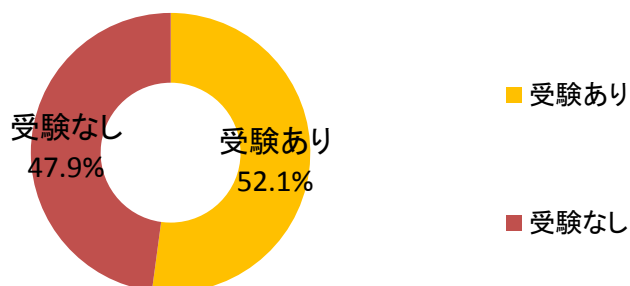
未修者



(単位:人)

既修者	受験あり	受験なし	合計
回答数	354	325	679
割合	52.1%	47.9%	100.0%

既修者



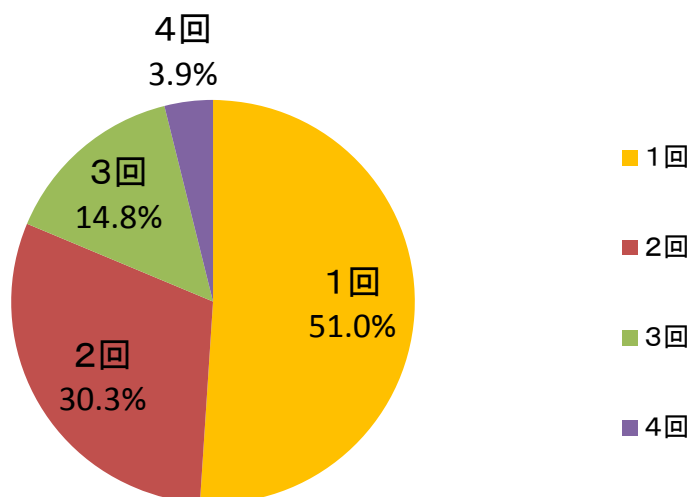
5 予備試験の受験回数

(以下、第2の4「予備試験受験の有無」で「受験あり」と回答した者のみ回答)

(単位:人)

全体	1回	2回	3回	4回	合計
回答数	224	133	65	17	439
割合	51.0%	30.3%	14.8%	3.9%	100.0%

全体



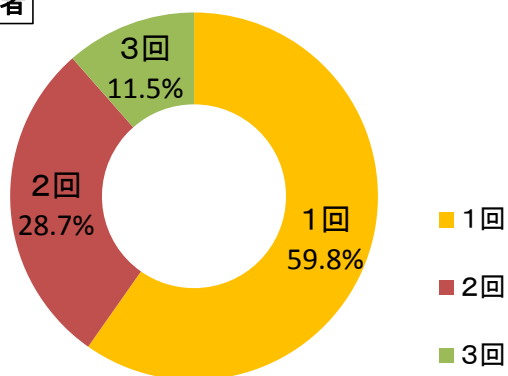
(単位:人)

未修者	1回	2回	3回	4回	合計
回答数	52	25	10	0	87
割合	59.8%	28.7%	11.5%	0.0%	100.0%

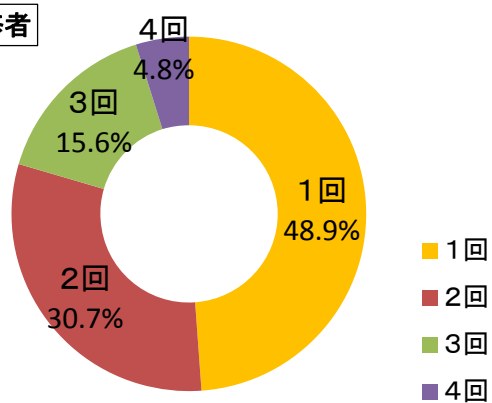
(単位:人)

既修者	1回	2回	3回	4回	合計
回答数	172	108	55	17	352
割合	48.9%	30.7%	15.6%	4.8%	100.0%

未修者



既修者

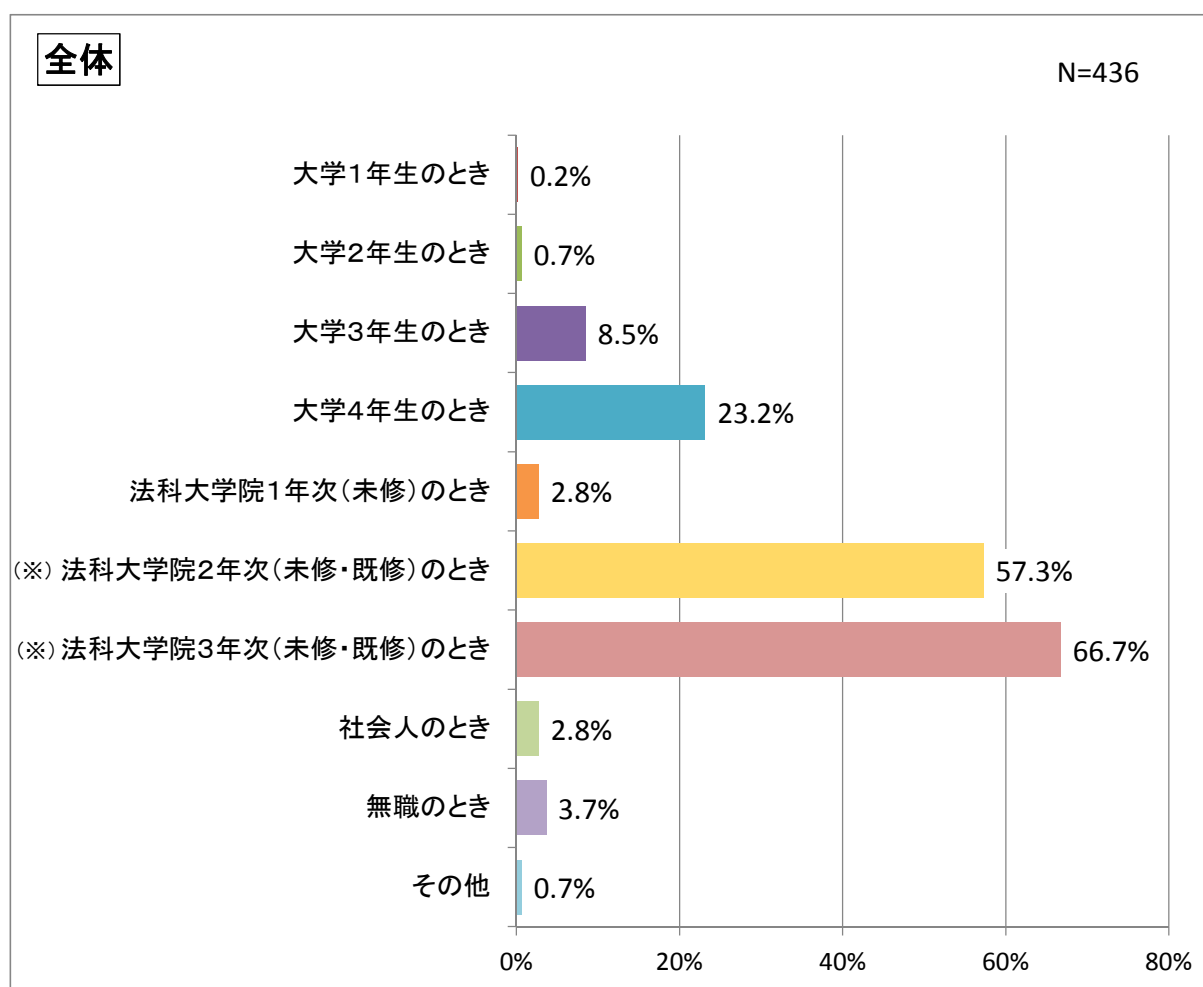


6 予備試験の受験時期(複数選択可)

(単位:人)

全体	大学1年生のとき	大学2年生のとき	大学3年生のとき	大学4年生のとき	法科大学院1年次(未修)のとき	法科大学院2年次(未修・既修)のとき
回答数	1	3	37	101	12	250
割合	0.2%	0.7%	8.5%	23.2%	2.8%	57.3%
	法科大学院3年次(未修・既修)のとき	法科大学院以外の大学院生のとき	社会人のとき	無職のとき	その他	合計
回答数	291	0	12	16	3	726
割合	66.7%	0.0%	2.8%	3.7%	0.7%	-

※この割合は、回答者数に占める回答数の割合(割合=回答数/回答者数(436人))



(※) 既修者の入学1年目は、法科大学院2年次として、
既修者の入学2年目は、法科大学院3年次として集計

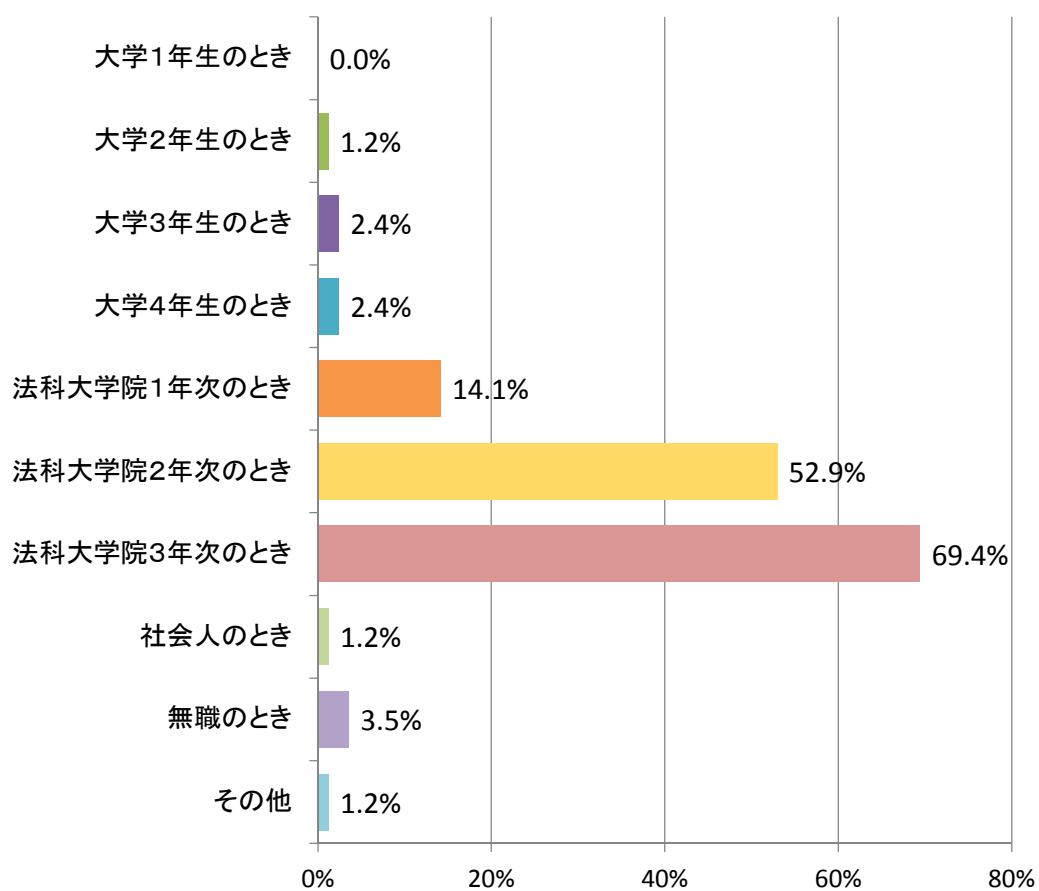
(単位:人)

未修者	大学1年生のとき	大学2年生のとき	大学3年生のとき	大学4年生のとき	法科大学院1年次のとき	法科大学院2年次のとき
回答数	0	1	2	2	12	45
割合	0.0%	1.2%	2.4%	2.4%	14.1%	52.9%
	法科大学院3年次のとき	法科大学院以外の大学院生のとき	社会人のとき	無職のとき	その他	合計
回答数	59	0	1	3	1	126
割合	69.4%	0.0%	1.2%	3.5%	1.2%	-

※この割合は、回答者数に占める回答数の割合(割合=回答数/回答者数(85人))

未修者

N=85



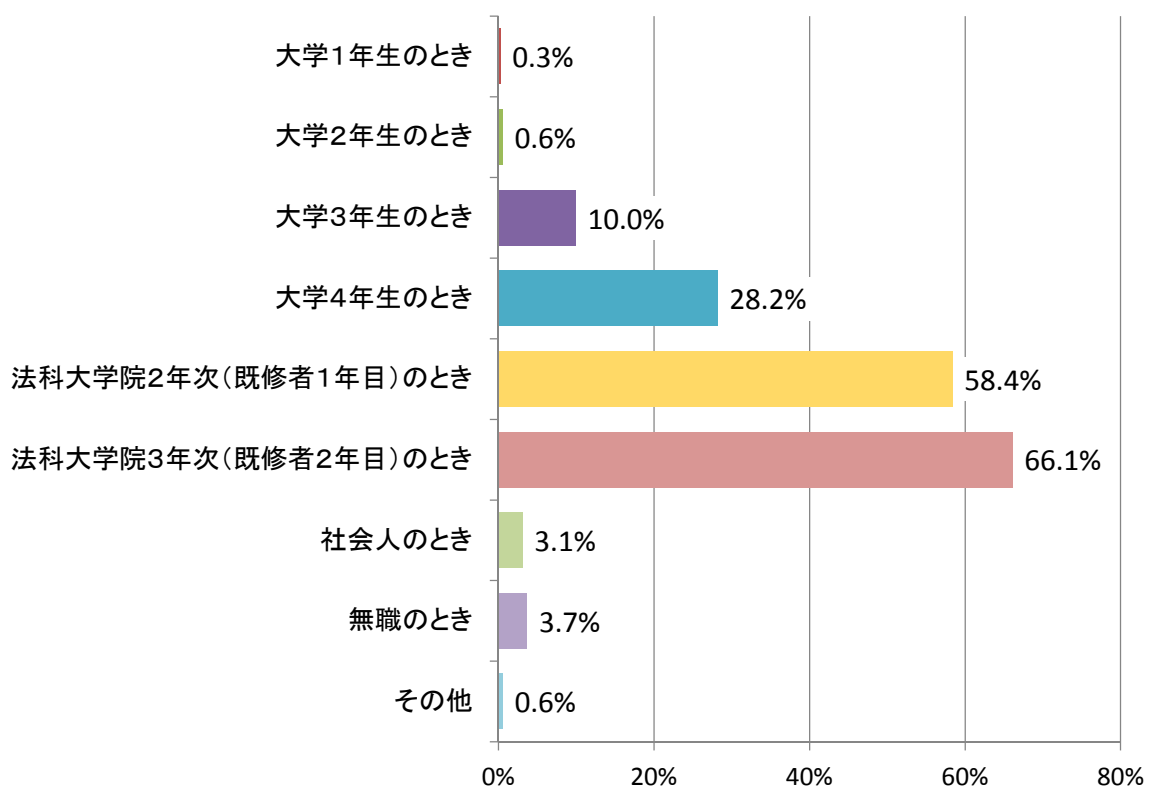
(単位:人)

既修者	大学1年生のとき	大学2年生のとき	大学3年生のとき	大学4年生のとき	法科大学院1年次(未修)のとき	法科大学院2年次(既修者1年目)のとき
回答数	1	2	35	99	-	205
割合	0.3%	0.6%	10.0%	28.2%	-	58.4%
	法科大学院3年次(既修者2年目)のとき	法科大学院以外の大学院生のとき	社会人のとき	無職のとき	その他	合計
回答数	232	0	11	13	2	600
割合	66.1%	0.0%	3.1%	3.7%	0.6%	-

※この割合は、回答者数に占める回答数の割合(割合=回答数/回答者数(351人))

既修者

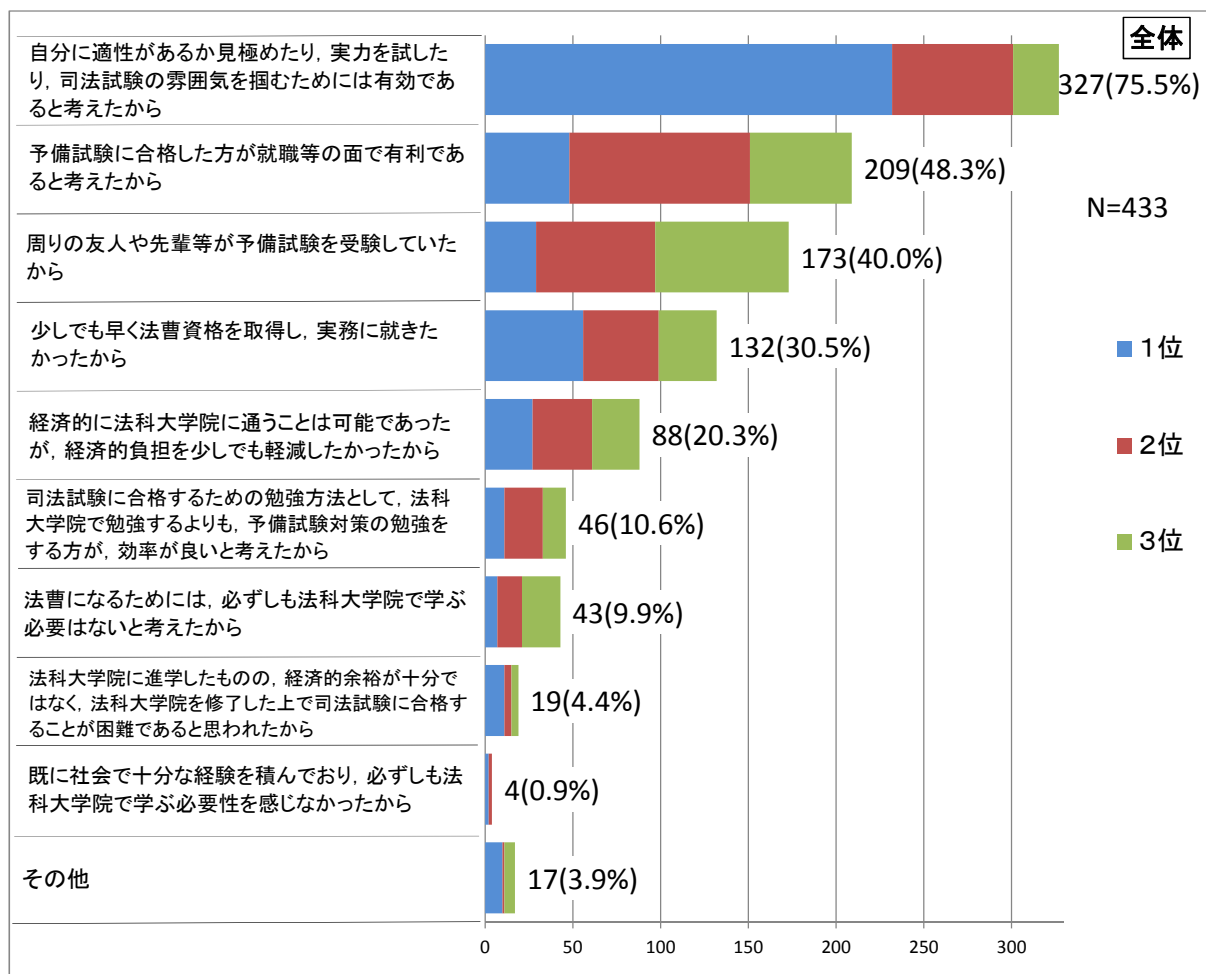
N=351



7 予備試験を受験した理由(上位3つまで選択可)

(単位:人)					
全体	自分に適性があるか見極めたり、実力を試したり、司法試験の雰囲気を知るためには有効であると考えたから	予備試験に合格した方が就職等の面で有利であると考えたから	周りの友人や先輩等が予備試験を受験していたから	少しでも早く法曹資格を取得し、実務に就きたかったから	経済的に法科大学院に通うことは可能であったが、経済的負担を少しでも軽減したかったから
1位 433	232 (53.6%)	48 (11.1%)	29 (6.7%)	56 (12.9%)	27 (6.2%)
2位 360	69 (19.2%)	103 (28.6%)	68 (18.9%)	43 (11.9%)	34 (9.4%)
3位 265	26 (9.8%)	58 (21.9%)	76 (28.7%)	33 (12.5%)	27 (10.2%)
合計 1,058	327 (75.5%)	209 (48.3%)	173 (40.0%)	132 (30.5%)	88 (20.3%)
	司法試験に合格するための勉強方法として、法科大学院で勉強するよりも、予備試験対策の勉強をする方が、効率が良いと考えたから	法曹になるためには、必ずしも法科大学院で学ぶ必要はないと考えたから	法科大学院に進学したものの、経済的余裕が十分ではなく、法科大学院を修了した上で司法試験に合格することが困難であると思われたから	既に社会で十分な経験を積んでおり、必ずしも法科大学院で学ぶ必要性を感じなかったから	その他
1位	11 (2.5%)	7 (1.6%)	11 (2.5%)	2 (0.5%)	10 (2.3%)
2位	22 (6.1%)	14 (3.9%)	4 (1.1%)	2 (0.6%)	1 (0.3%)
3位	13 (4.9%)	22 (8.3%)	4 (1.5%)	0 (0.0%)	6 (2.3%)
合計	46 (10.6%)	43 (9.9%)	19 (4.4%)	4 (0.9%)	17 (3.9%)

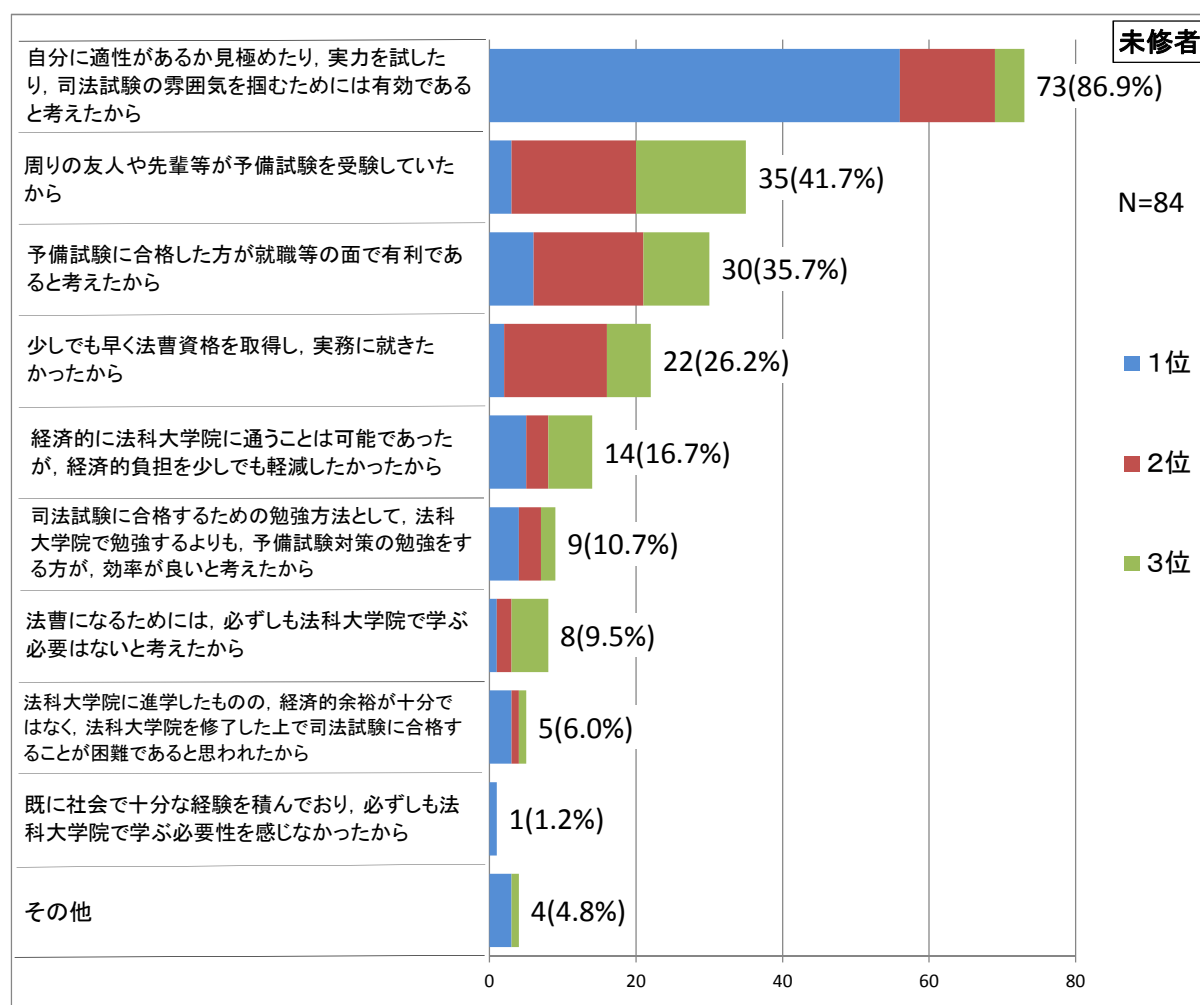
※1位～3位の合計における割合は、回答者数に占める合計の回答数の割合(割合=合計の回答数/回答者数(433人))



(単位:人)

未修者	自分に適性があるか見極めたり、実力を試したり、司法試験の雰囲気を知るためには有効であると考えたから	周りの友人や先輩等が予備試験を受験していたから	予備試験に合格した方が就職等の面で有利であると考えたから	少しでも早く法曹資格を取得し、実務に就きたかったから	経済的に法科大学院に通うことは可能であったが、経済的負担を少しでも軽減したかったから
1位 84	56 (66.7%)	3 (3.6%)	6 (7.1%)	2 (2.4%)	5 (6.0%)
2位 68	13 (19.1%)	17 (25.0%)	15 (22.1%)	14 (20.6%)	3 (4.4%)
3位 49	4 (8.2%)	15 (30.6%)	9 (18.4%)	6 (12.2%)	6 (12.2%)
合計 201	73 (86.9%)	35 (41.7%)	30 (35.7%)	22 (26.2%)	14 (16.7%)
	司法試験に合格するための勉強方法として、法科大学院で勉強するよりも、予備試験対策の勉強をする方が、効率が良いと考えたから	法曹になるためには、必ずしも法科大学院で学ぶ必要はないと考えたから	法科大学院に進学したものの、経済的余裕が十分ではなく、法科大学院を修了した上で司法試験に合格することが困難であると思われたから	既に社会で十分な経験を積んでおり、必ずしも法科大学院で学ぶ必要性を感じなかったから	その他
1位	4 (4.8%)	1 (1.2%)	3 (3.6%)	1 (1.2%)	3 (3.6%)
2位	3 (4.4%)	2 (2.9%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
3位	2 (4.1%)	5 (10.2%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	1 (2.0%)
合計	9 (10.7%)	8 (9.5%)	5 (6.0%)	1 (1.2%)	4 (4.8%)

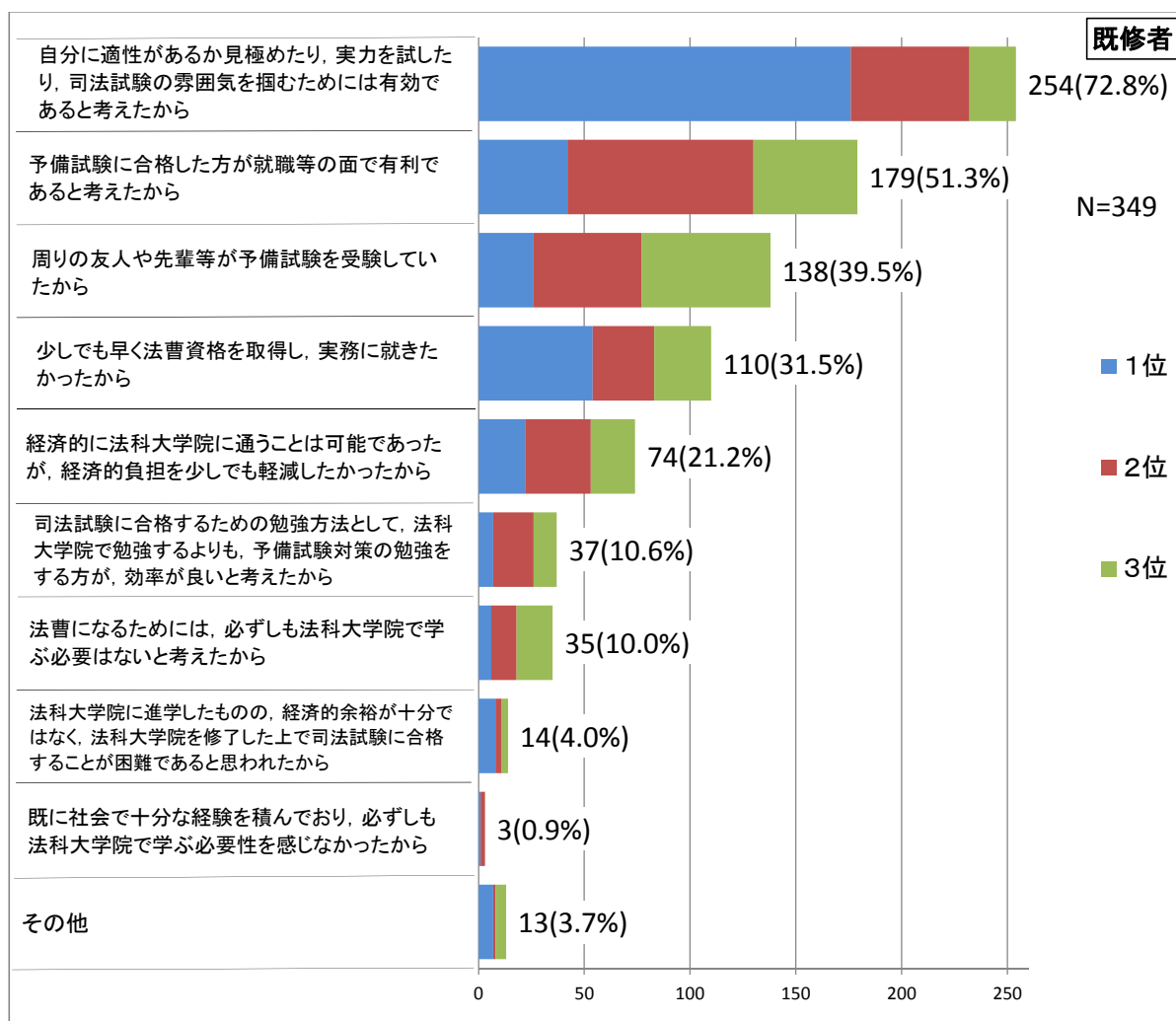
※1位～3位の合計における割合は、回答者数に占める合計の回答数の割合(割合=合計の回答数/回答者数(84人))



(単位:人)

既修者	自分に適性があるか見極めたり、実力を試したり、司法試験の雰囲気をつかむためには有効であると考えたから	予備試験に合格した方が就職等の面で有利であると考えたから	周りの友人や先輩等が予備試験を受験していたから	少しでも早く法曹資格を取得し、実務に就きたかったから	経済的に法科大学院に通うことは可能であったが、経済的負担を少しでも軽減したかったから
1位 349	176 (50.4%)	42 (12.0%)	26 (7.4%)	54 (15.5%)	22 (6.3%)
2位 292	56 (19.2%)	88 (30.1%)	51 (17.5%)	29 (9.9%)	31 (10.6%)
3位 216	22 (10.2%)	49 (22.7%)	61 (28.2%)	27 (12.5%)	21 (9.7%)
合計 857	254 (72.8%)	179 (51.3%)	138 (39.5%)	110 (31.5%)	74 (21.2%)
その他	司法試験に合格するための勉強方法として、法科大学院で勉強するよりも、予備試験対策の勉強をする方が、効率が良いと考えたから	法曹になるためには、必ずしも法科大学院で学ぶ必要はないと考えたから	法科大学院に進学したものの、経済的余裕が十分ではなく、法科大学院を修了した上で司法試験に合格することが困難であると思われたから	既に社会で十分な経験を積んでおり、必ずしも法科大学院で学ぶ必要性を感じなかったから	その他
1位	7 (2.0%)	6 (1.7%)	8 (2.3%)	1 (0.3%)	7 (2.0%)
2位	19 (6.5%)	12 (4.1%)	3 (1.0%)	2 (0.7%)	1 (0.3%)
3位	11 (5.1%)	17 (7.9%)	3 (1.4%)	0 (0.0%)	5 (2.3%)
合計	37 (10.6%)	35 (10.0%)	14 (4.0%)	3 (0.9%)	13 (3.7%)

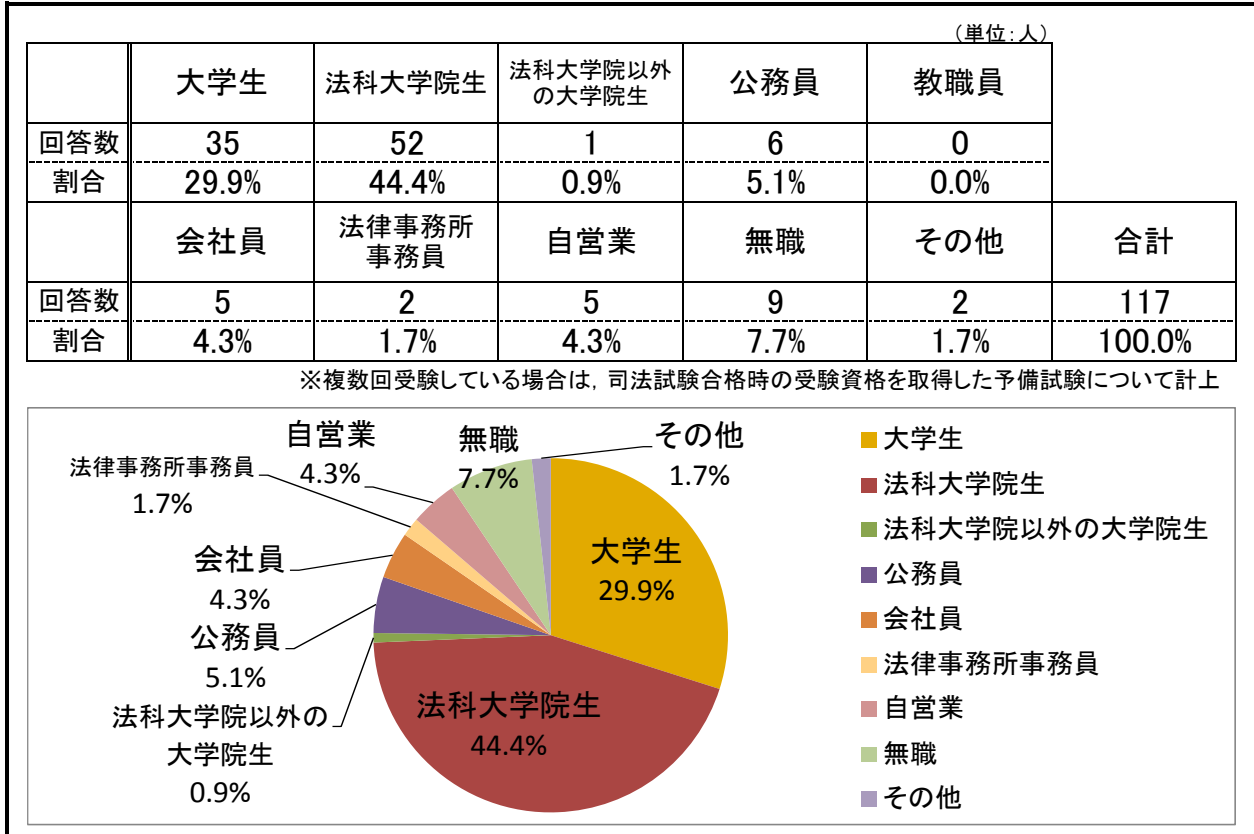
※1位～3位の合計における割合は、回答者数に占める合計の回答数の割合(割合＝合計の回答数／回答者数(349人))



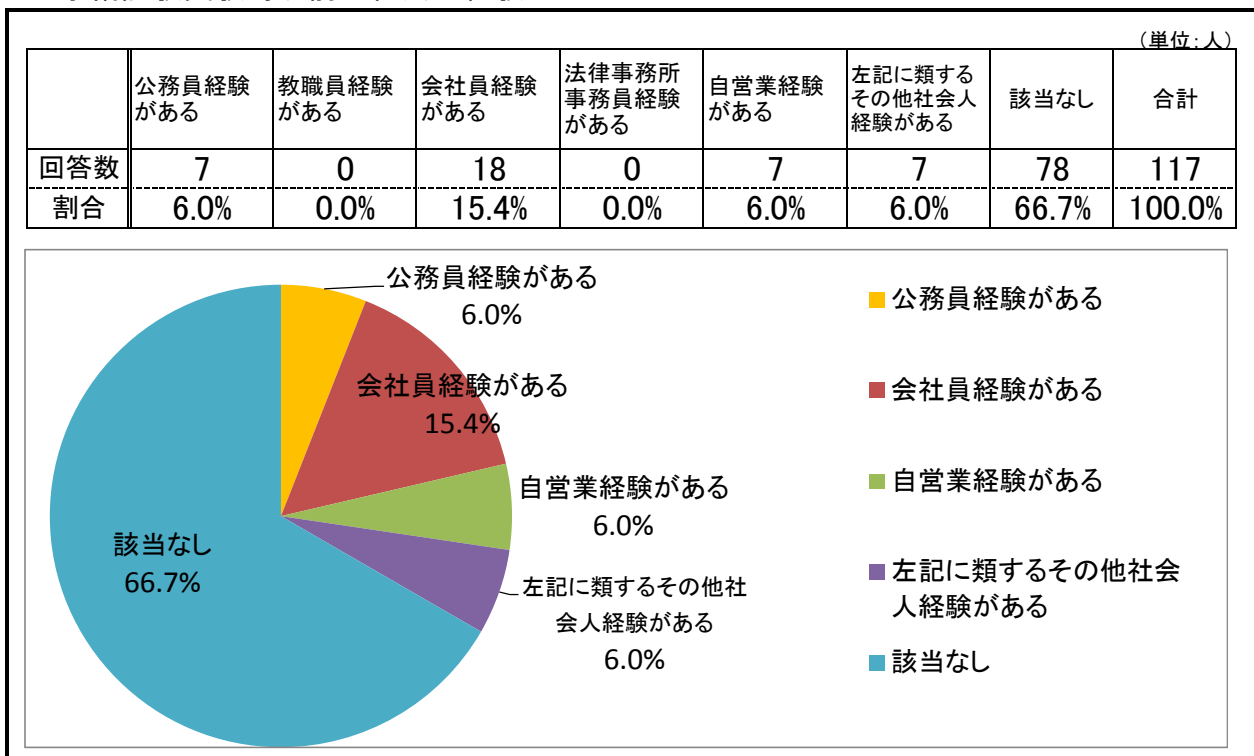
第3 予備試験合格資格による司法試験合格者(※)の予備試験の受験状況等

(※) 第1の3「司法試験合格時の資格」において、「3 法科大学院修了資格は有しておらず、予備試験合格資格で合格した」又は「4 法科大学院修了資格も有しているが、予備試験合格資格で合格した」と回答した者

1 予備試験受験時の職業等



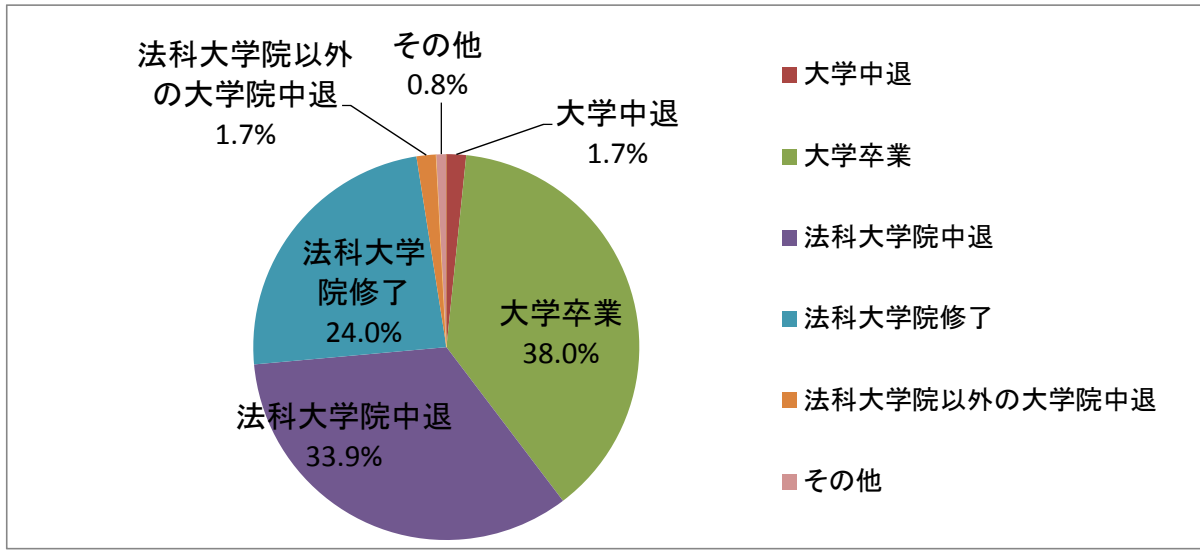
2 予備試験受験時以前の社会人経験



3 最終学歴

(単位:人)

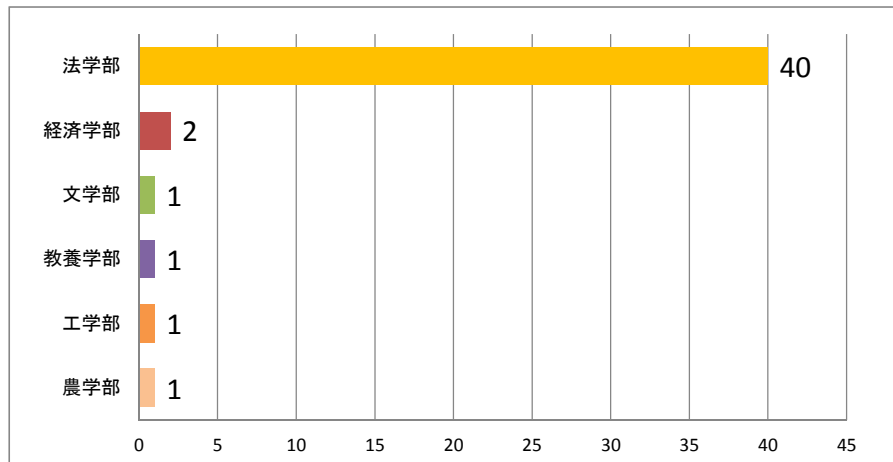
	高校卒業	大学中退	大学卒業	法科大学院 中退	法科大学院 修了	法科大学院 以外の大学 院中退	法科大学院 以外の大学 院修了	その他	合計
回答数	0	2	46	41	29	2	0	1	121
割合	0.0%	1.7%	38.0%	33.9%	24.0%	1.7%	0.0%	0.8%	100.0%



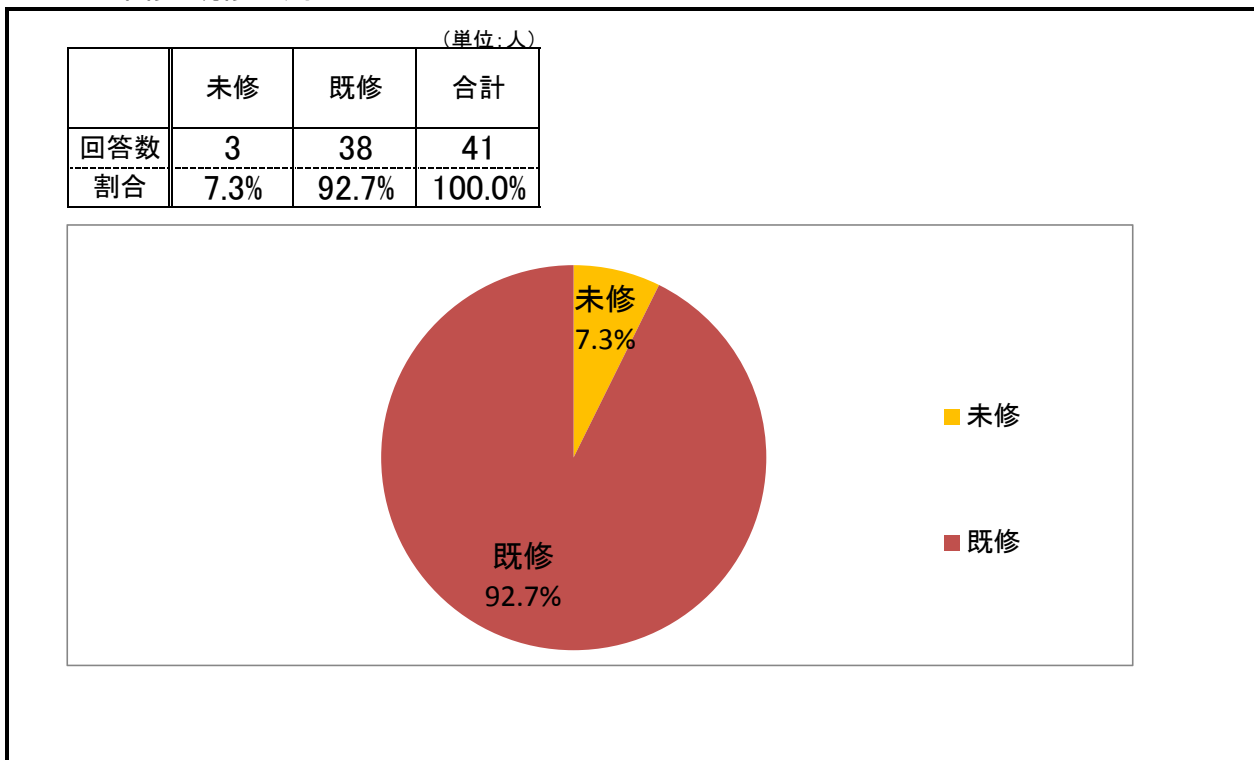
(1) 最終学歴を「大学中退」又は「大学卒業」と回答した者が在籍していた学部

(単位:人)

学部	人数
法学部	40
経済学部	2
文学部	1
教養学部	1
工学部	1
農学部	1
合計	46



(2) 最終学歴を「法科大学院中退」と回答した者の経歴
ア 未修・既修の別



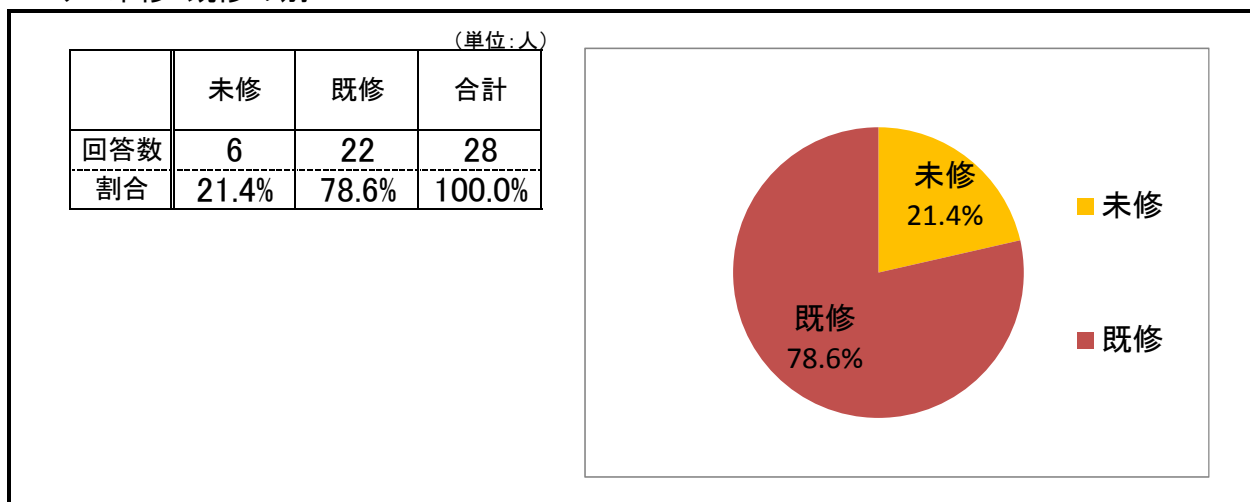
イ 法科大学院を中退した年月

(単位:人)

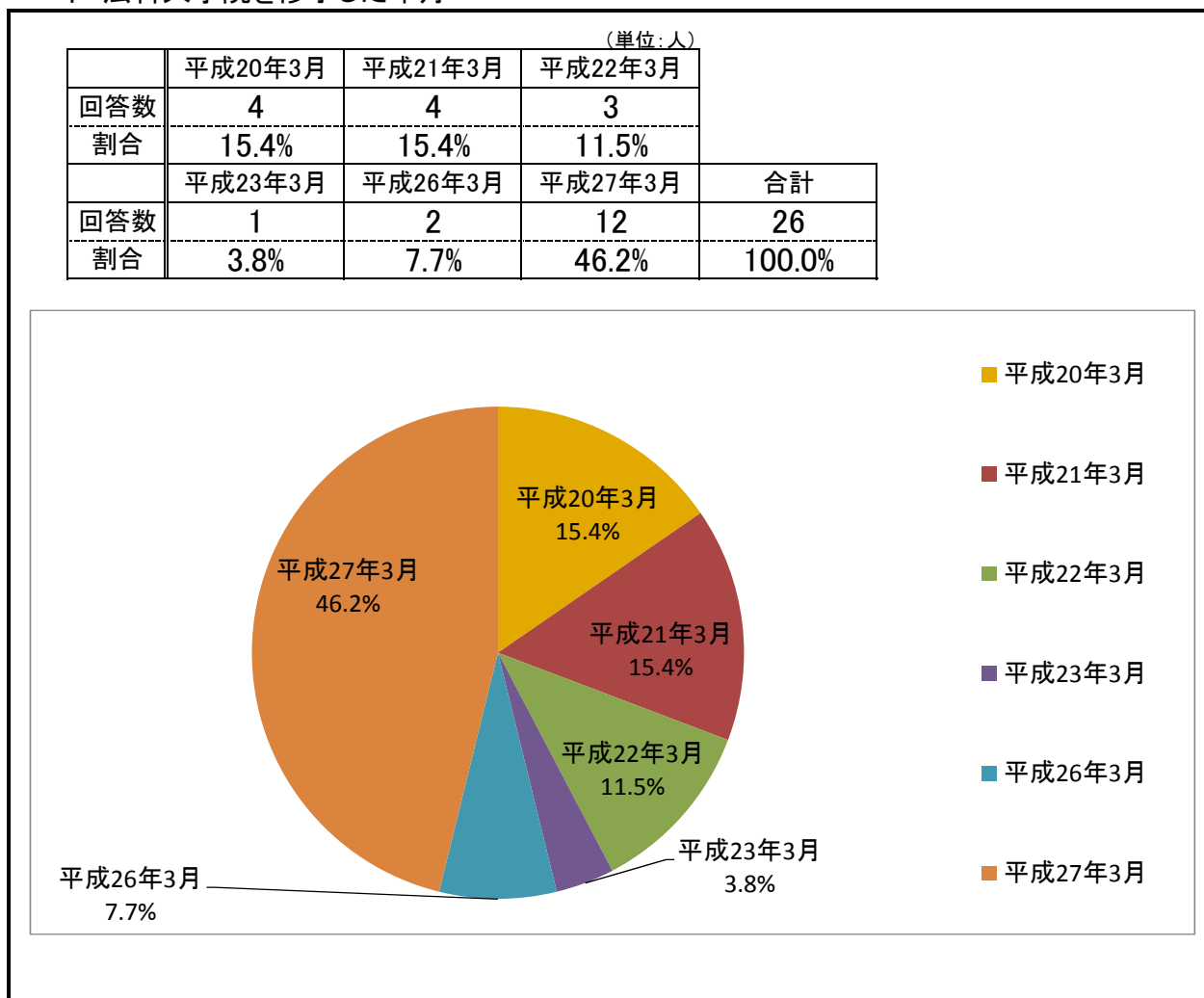
	平成21年3月	平成27年3月	平成27年9月	平成27年10月	平成27年11月	合計
回答数	1	6	14	8	8	37
割合	2.7%	16.2%	37.8%	21.6%	21.6%	100.0%

(3) 最終学歴を「法科大学院修了」と回答した者の経歴

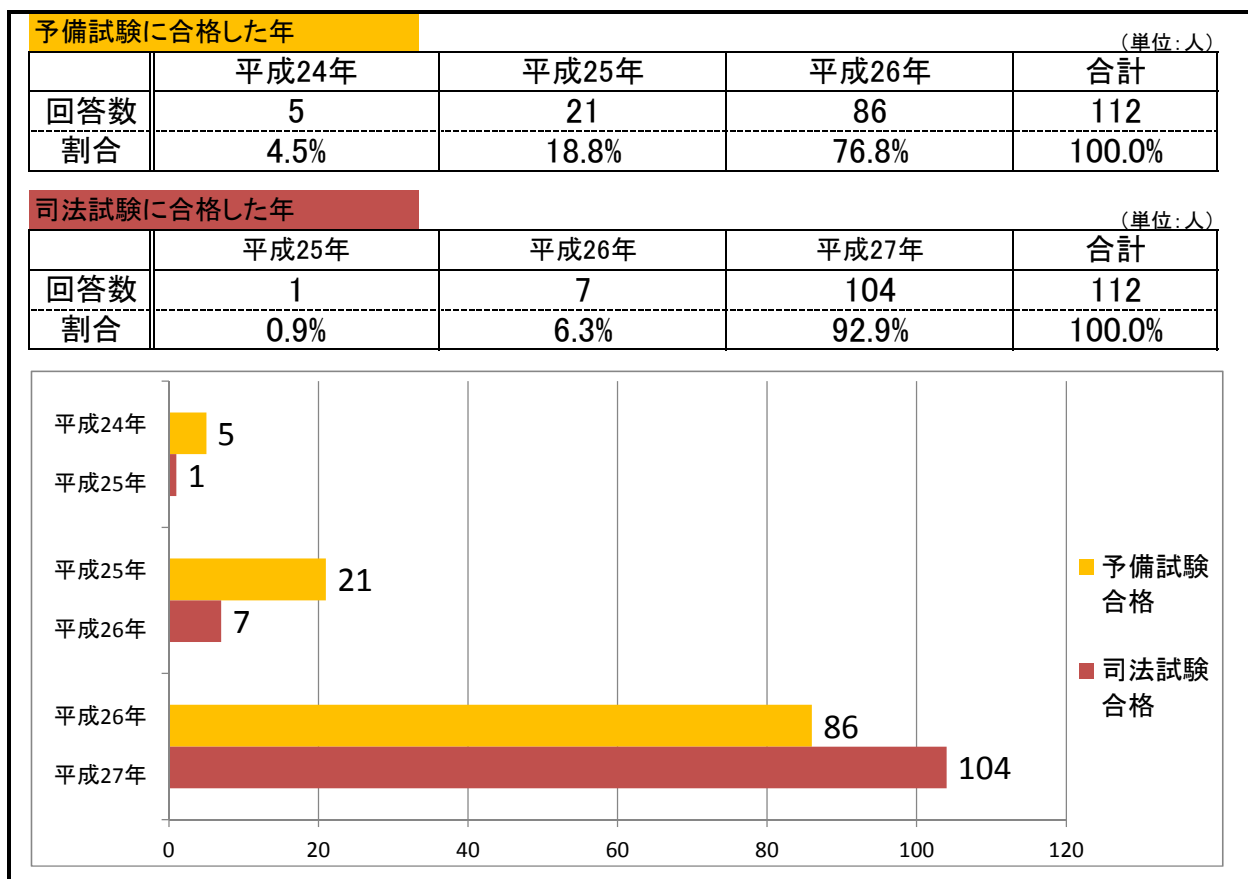
ア 未修・既修の別



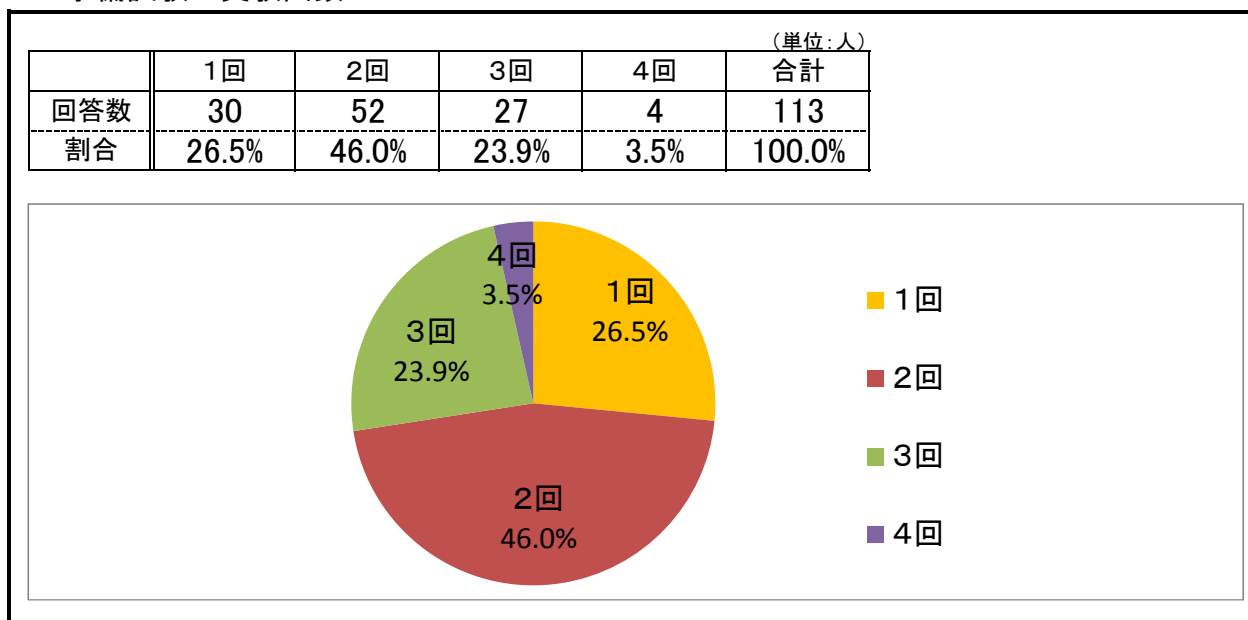
イ 法科大学院を修了した年月



4 予備試験及び司法試験に合格した年



5 予備試験の受験回数

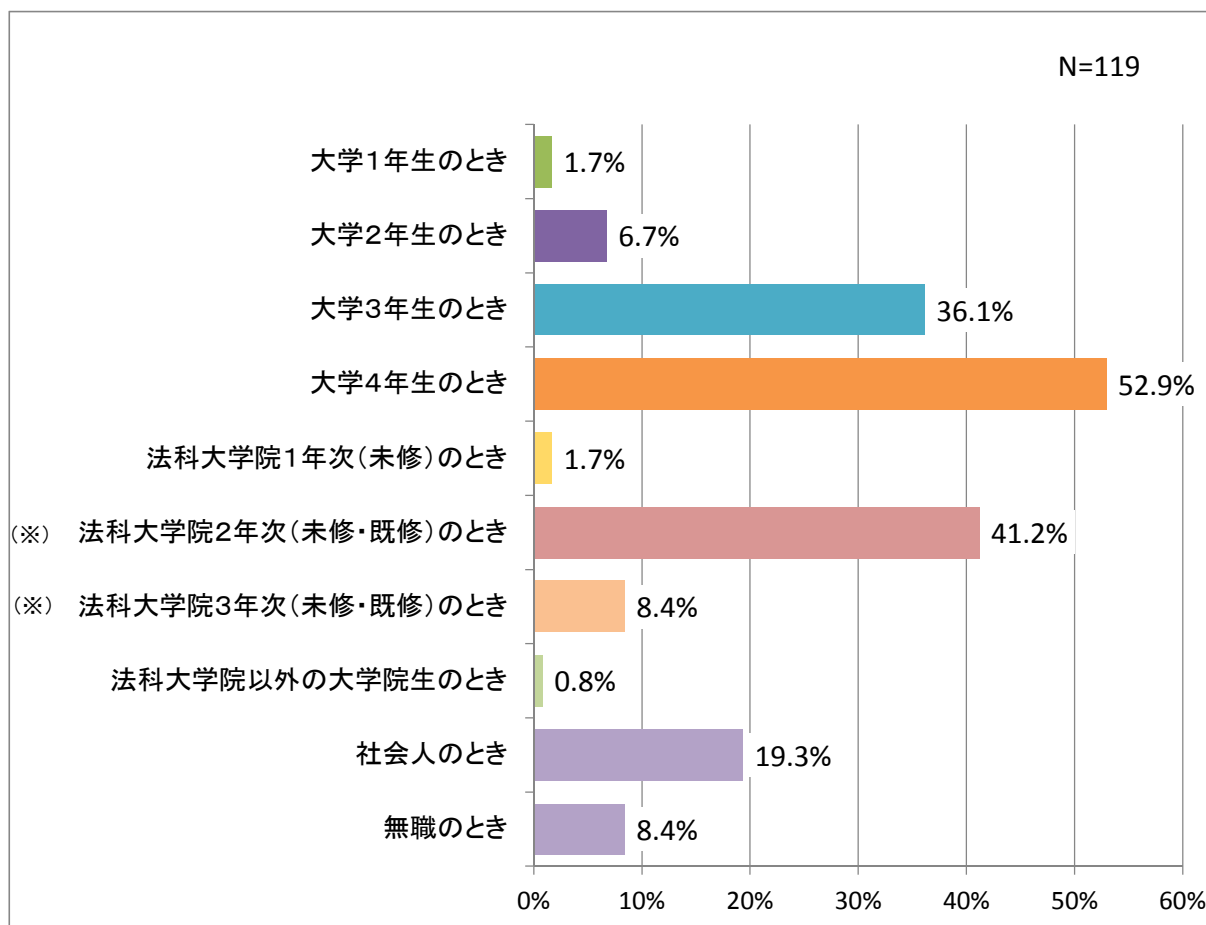


6 予備試験の受験時期(複数選択可)

(単位:人)

	大学1年生のとき	大学2年生のとき	大学3年生のとき	大学4年生のとき	法科大学院1年次(未修)のとき	法科大学院2年次(未修・既修)のとき
回答数	2	8	43	63	2	49
割合	1.7%	6.7%	36.1%	52.9%	1.7%	41.2%
	法科大学院3年次(未修・既修)のとき	法科大学院以外の大学院生のとき	社会人のとき	無職のとき	その他	合計
回答数	10	1	23	10	0	211
割合	8.4%	0.8%	19.3%	8.4%	0.0%	-

※この割合は、回答者数に占める回答数の割合(割合=回答数/回答者数(119人))



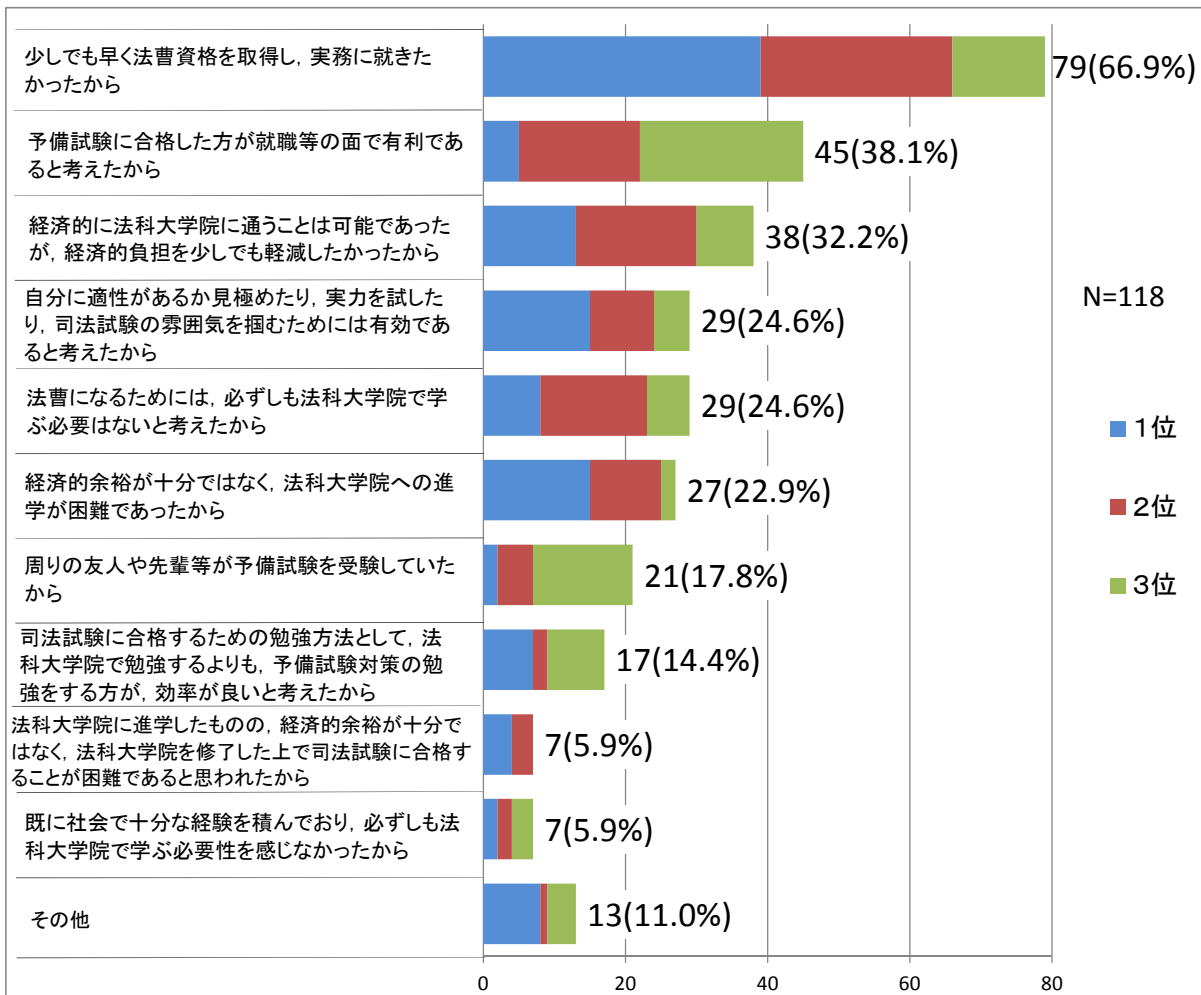
(※) 既修者の入学1年目は、法科大学院2年次として、
既修者の入学2年目は、法科大学院3年次として集計

7 予備試験を受験した理由(上位3つまで選択可)

(単位:人)

回答数		少しでも早く法曹資格を取得し、実務に就きたかったから	予備試験に合格した方が就職等の面で有利であると考えたから	経済的に法科大学院に通うことは可能であったが、経済的負担を少しでも軽減したかったから	自分に適性があるか見極めたり、実力を試したり、司法試験の雰囲気を知むには有効であると考えたから	法曹になるためには、必ずしも法科大学院で学ぶ必要はないと考えたから
1位	118	39 (33.1%)	5 (4.2%)	13 (11.0%)	15 (12.7%)	8 (6.8%)
2位	108	27 (25.0%)	17 (15.7%)	17 (15.7%)	9 (8.3%)	15 (13.9%)
3位	86	13 (15.1%)	23 (26.7%)	8 (9.3%)	5 (5.8%)	6 (7.0%)
合計	312	79 (66.9%)	45 (38.1%)	38 (32.2%)	29 (24.6%)	29 (24.6%)
経済的余裕が十分ではなく、法科大学院への進学が困難であったから		周りの友人や先輩等が予備試験を受験していたから	司法試験に合格するための勉強方法として、法科大学院で勉強するよりも予備試験対策の勉強をする方が、効率が良いと考えたから	法科大学院に進学したものの、経済的余裕が十分ではなく、法科大学院を修了した上で司法試験に合格することが困難であると思われたから	既に社会で十分な経験を積んでおり、必ずしも法科大学院で学ぶ必要性を感じなかったから	その他
1位	15 (12.7%)	2 (1.7%)	7 (5.9%)	4 (3.4%)	2 (1.7%)	8 (6.8%)
2位	10 (9.3%)	5 (4.6%)	2 (1.9%)	3 (2.8%)	2 (1.9%)	1 (0.9%)
3位	2 (2.3%)	14 (16.3%)	8 (9.3%)	0 (0.0%)	3 (3.5%)	4 (4.7%)
合計	27 (22.9%)	21 (17.8%)	17 (14.4%)	7 (5.9%)	7 (5.9%)	13 (11.0%)

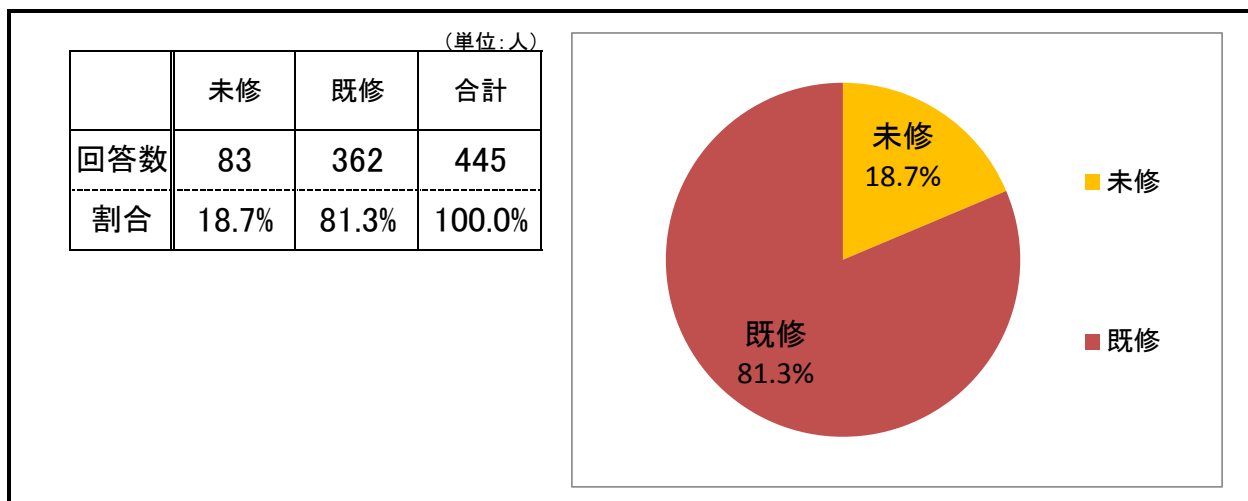
※1位～3位の合計における割合は、回答者数に占める合計の回答数の割合(割合=合計の回答数/回答者数(118人))



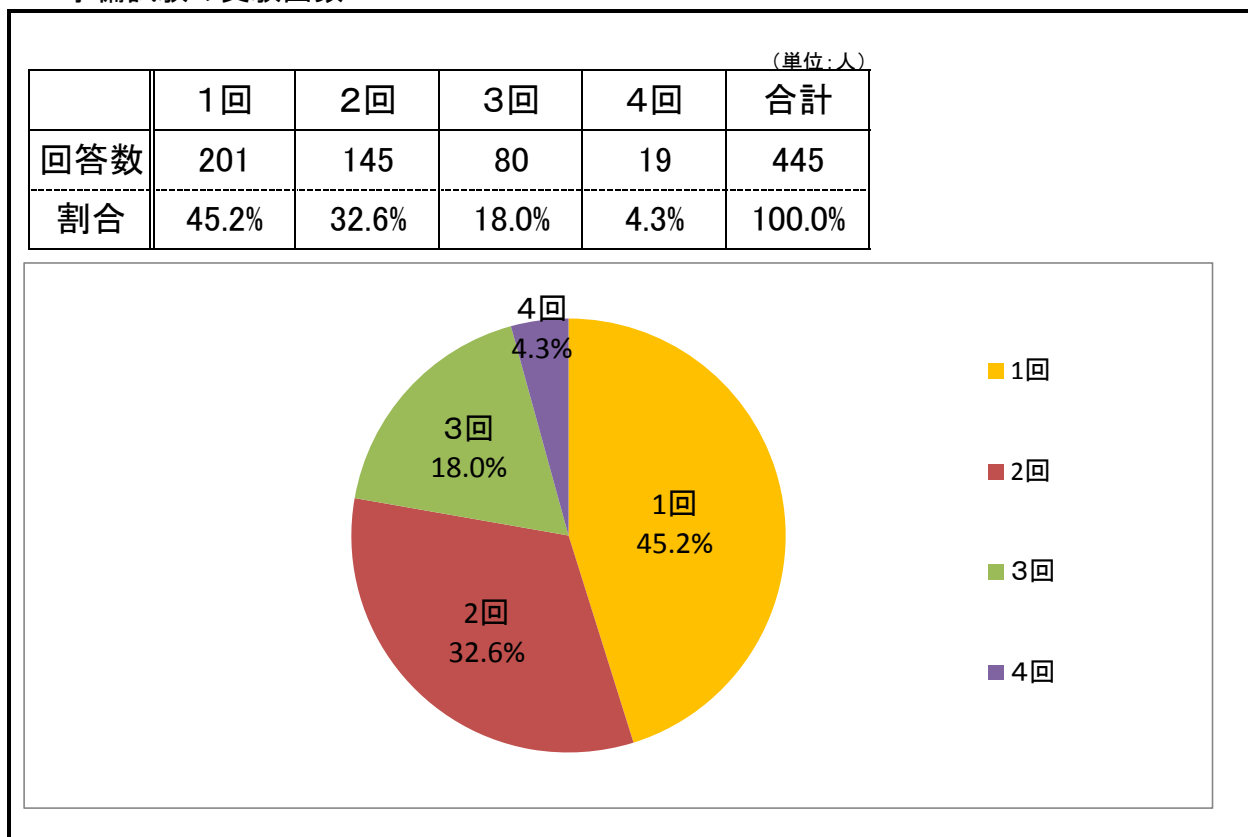
参考1 予備試験受験時に法科大学院に在籍していた者(※)の予備試験の受験状況等

(※) 第2の6「予備試験の受験時期」又は第3の6「予備試験の受験時期」において、「法科大学院1年次(未修)のとき」、「法科大学院2年次(未修・既修)のとき」又は「法科大学院3年次(未修・既修)のとき」のいずれかに回答した者

1 未修・既修の別



2 予備試験の受験回数

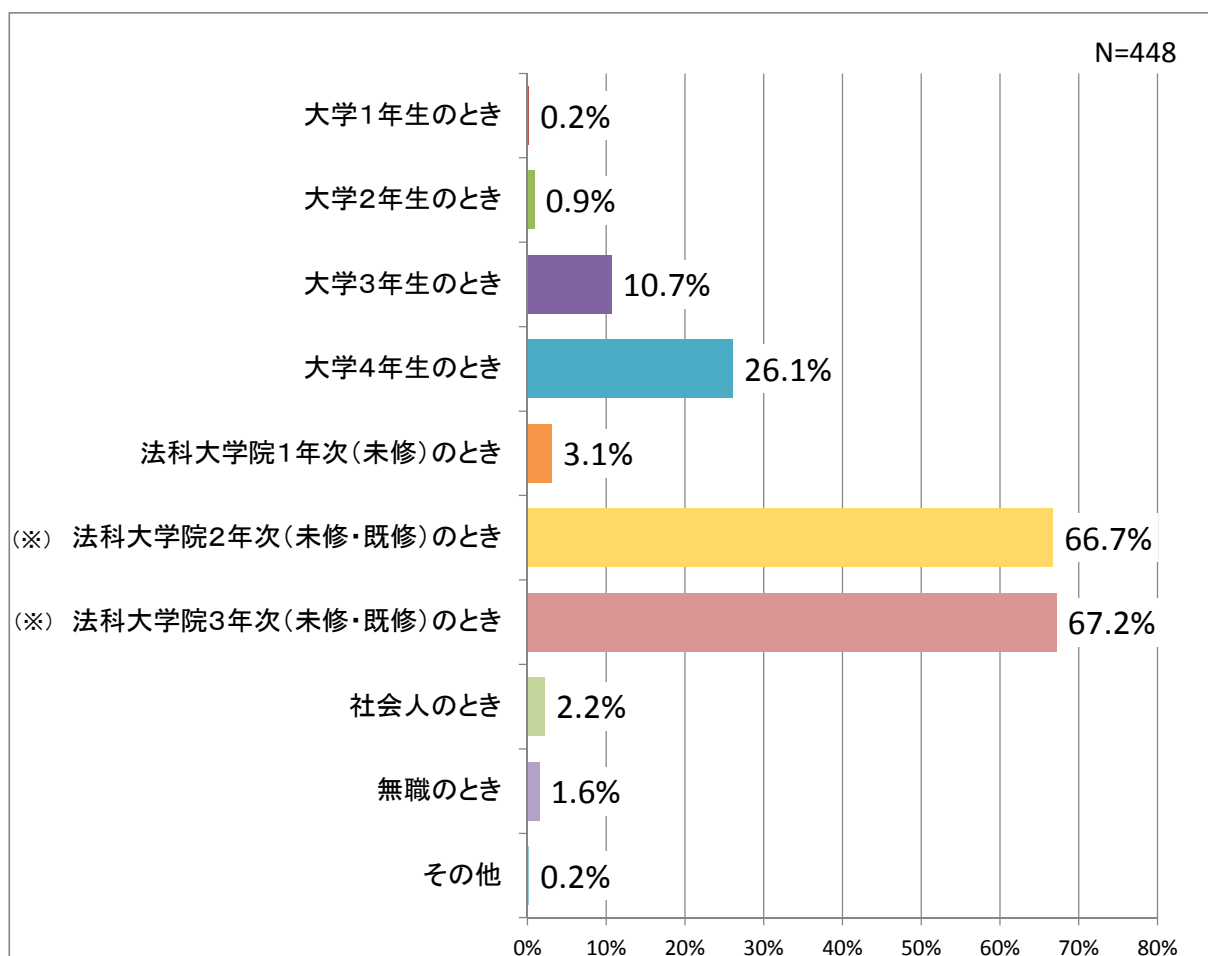


3 予備試験の受験時期(複数選択可)

(単位:人)

	大学1年生のとき	大学2年生のとき	大学3年生のとき	大学4年生のとき	法科大学院1年次(未修)のとき	法科大学院2年次(未修・既修)のとき
回答数	1	4	48	117	14	299
割合	0.2%	0.9%	10.7%	26.1%	3.1%	66.7%
	法科大学院3年次(未修・既修)のとき	法科大学院以外の大学院生のとき	社会人のとき	無職のとき	その他	合計
回答数	301	0	10	7	1	802
割合	67.2%	0.0%	2.2%	1.6%	0.2%	-

※この割合は、回答者数に占める回答数の割合(割合=回答数/回答者数(448人))

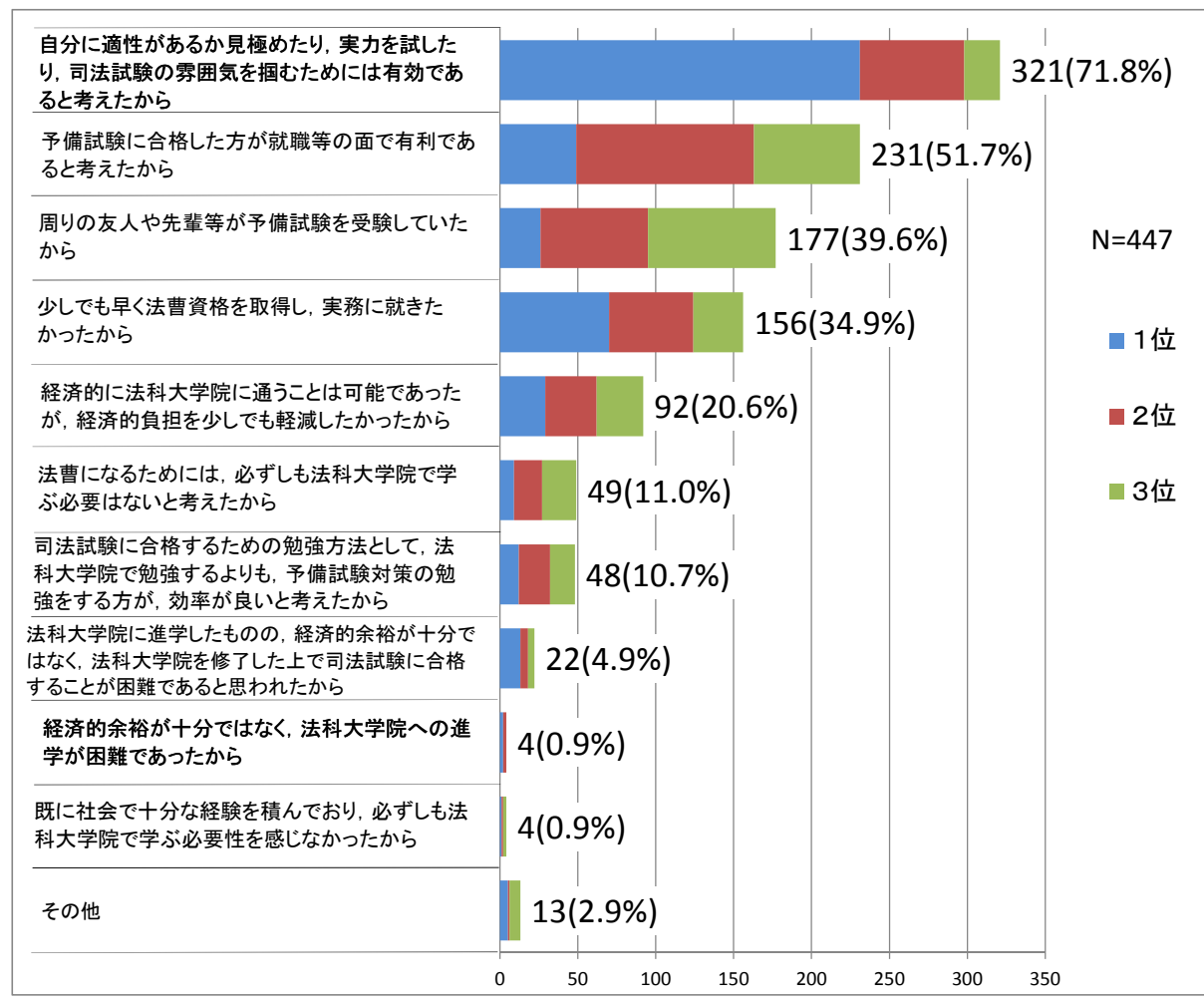


(※) 既修者の入学1年目は、法科大学院2年次として、
既修者の入学2年目は、法科大学院3年次として集計

4 予備試験を受験した理由(上位3つまで選択可)

回答数		自分に適性があるか見極めたり、実力を試したり、司法試験の雰囲気を知るには有効であると考えたから	予備試験に合格した方が就職等の面で有利であると考えたから	周りの友人や先輩等が予備試験を受験していたから	少しでも早く法曹資格を取得し、実務に就きたかったから	経済的に法科大学院に通うことは可能であったが、経済的負担を少しでも軽減したかったから
1位	447	231 (51.7%)	49 (11.0%)	26 (5.8%)	70 (15.7%)	29 (6.5%)
2位	384	67 (17.4%)	114 (29.7%)	69 (18.0%)	54 (14.1%)	33 (8.6%)
3位	286	23 (8.0%)	68 (23.8%)	82 (28.7%)	32 (11.2%)	30 (10.5%)
合計	1,117	321 (71.8%)	231 (51.7%)	177 (39.6%)	156 (34.9%)	92 (20.6%)
法曹になるためには、必ずしも法科大学院で学ぶ必要はないと考えたから		司法試験に合格するための勉強方法として、法科大学院で勉強するよりも予備試験対策の勉強をする方が、効率が良いと考えたから	法科大学院に進学したものの、経済的余裕が十分ではなく、法科大学院を修了した上で司法試験に合格することが困難であると思われたから	経済的余裕が十分ではなく、法科大学院への進学が困難であったから	既に社会で十分な経験を積んでおり、必ずしも法科大学院で学ぶ必要性を感じなかったから	その他
1位	9 (2.0%)	12 (2.7%)	13 (2.9%)	2 (0.4%)	1 (0.2%)	5 (1.1%)
2位	18 (4.7%)	20 (5.2%)	5 (1.3%)	2 (0.5%)	1 (0.3%)	1 (0.3%)
3位	22 (7.7%)	16 (5.6%)	4 (1.4%)	0 (0.0%)	2 (0.7%)	7 (2.4%)
合計	49 (11.0%)	48 (10.7%)	22 (4.9%)	4 (0.9%)	4 (0.9%)	13 (2.9%)

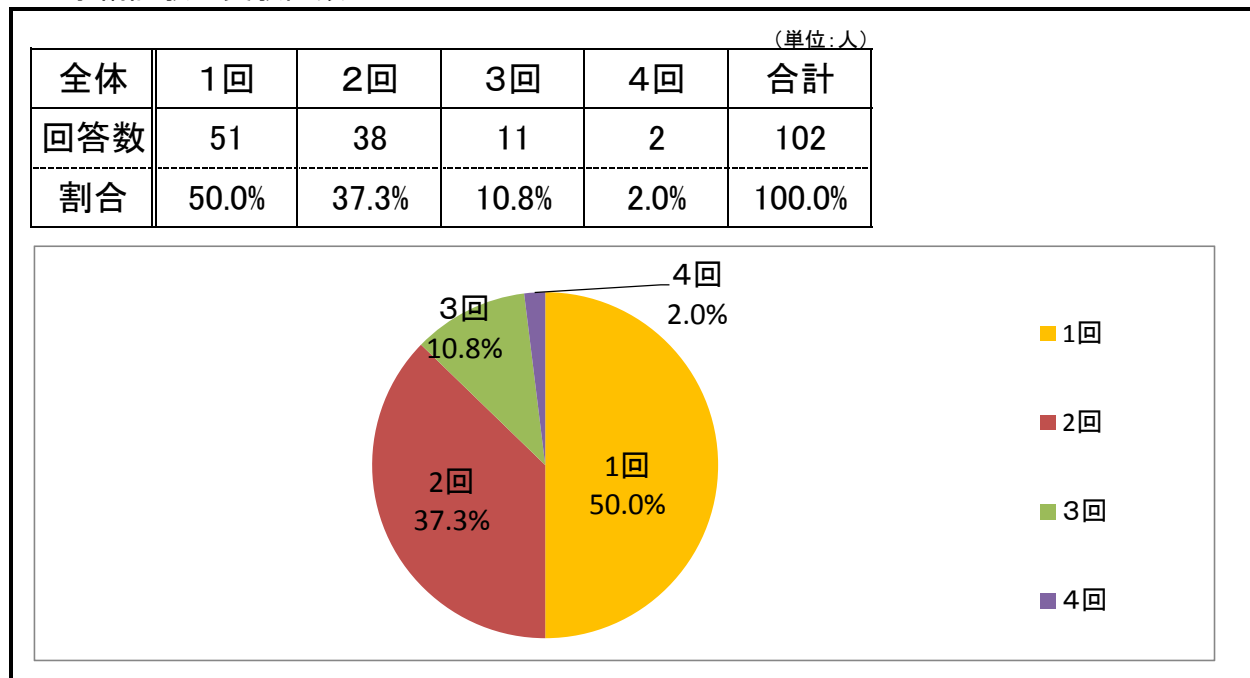
※1位～3位の合計における割合は、回答者数に占める合計の回答数の割合(割合=合計の回答数/回答者数(447人))



参考2 予備試験受験時に法科大学院に在籍していなかった者(※)の予備試験の受験状況等

(※) 第2の6「予備試験の受験時期」又は第3の6「予備試験の受験時期」において、「大学1年生のとき」、「大学2年生のとき」、「大学3年生のとき」、「大学4年生のとき」、「社会人のとき」、「無職のとき」又は「その他」のいずれかに回答し、「法科大学院1年次(未修)のとき」、「法科大学院2年次(未修・既修)のとき」又は「法科大学院3年次(未修・既修)のとき」のいずれにも回答をしていない者

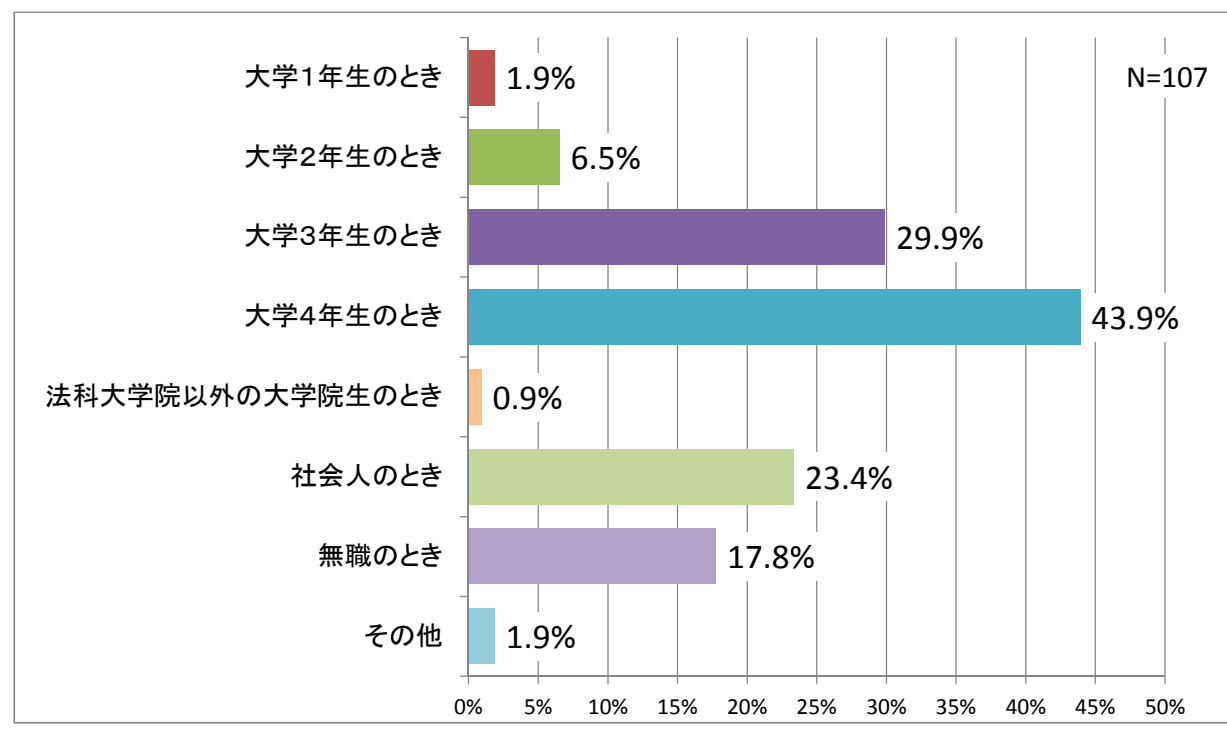
1 予備試験の受験回数



2 予備試験の受験時期(複数選択可)

(単位:人)						
	大学1年生のとき	大学2年生のとき	大学3年生のとき	大学4年生のとき	法科大学院1年次(未修)のとき	法科大学院2年次(未修・既修)のとき
回答数	2	7	32	47	—	—
割合	1.9%	6.5%	29.9%	43.9%	—	—
	法科大学院3年次(未修・既修)のとき	法科大学院以外の大学院生のとき	社会人のとき	無職のとき	その他	合計
回答数	—	1	25	19	2	135
割合	—	0.9%	23.4%	17.8%	1.9%	—

※この割合は、回答者数に占める回答数の割合(割合=回答数/回答者数(107人))

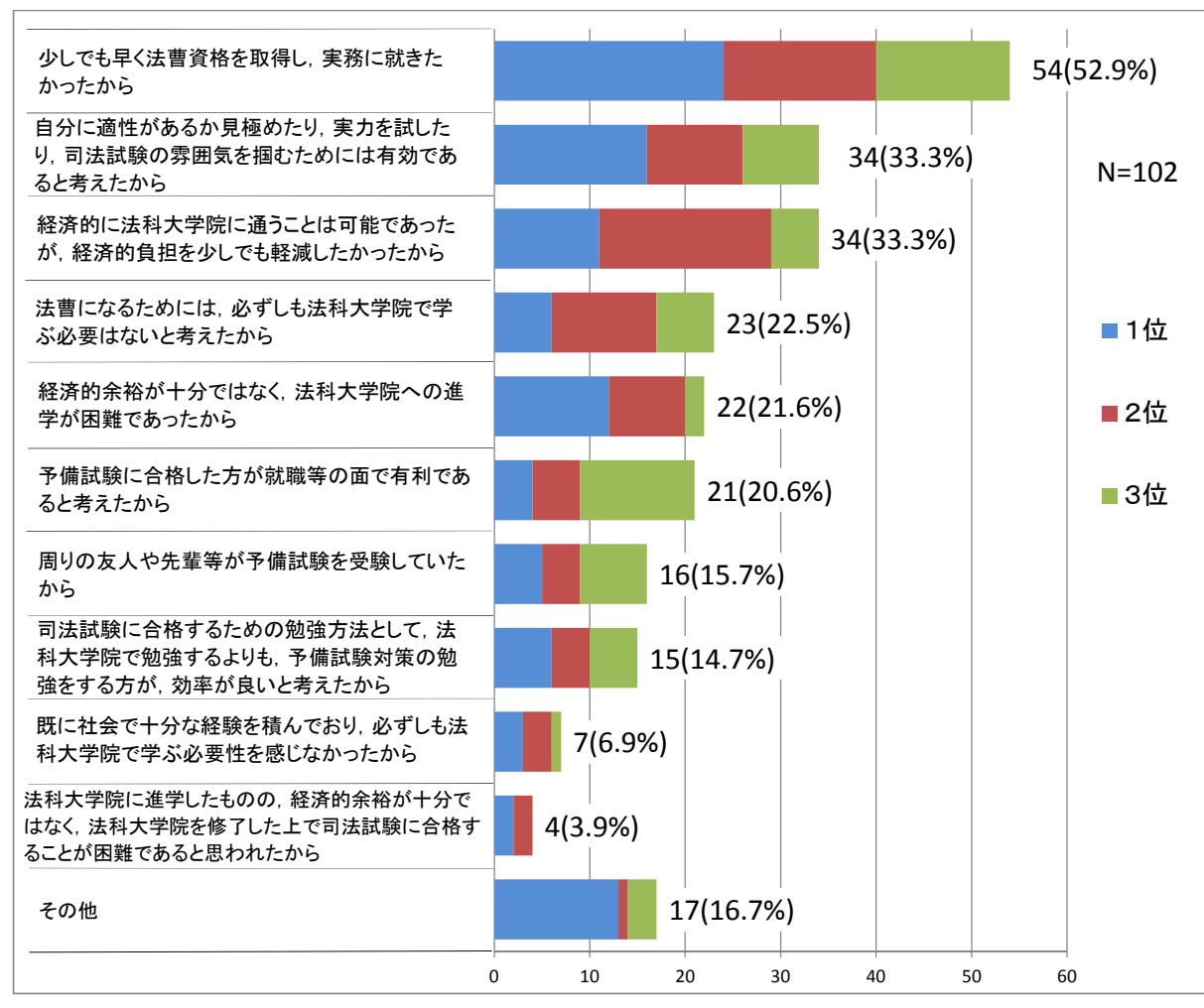


3 予備試験を受験した理由(上位3つまで選択可)

(単位:人)

回答数		少しでも早く法曹資格を取得し、実務に就きたかったから	自分に適性があるか見極めたり、実力を試したり、司法試験の雰囲気を知るには有効であると考えたから	経済的に法科大学院に通うことは可能であったが、経済的負担を少しでも軽減したかったから	法曹になるためには、必ずしも法科大学院で学ぶ必要はないと考えたから	経済的余裕が十分ではなく、法科大学院への進学が困難であったから
1位	102	24 (23.5%)	16 (15.7%)	11 (10.8%)	6 (5.9%)	12 (11.8%)
2位	82	16 (19.5%)	10 (12.2%)	18 (22.0%)	11 (13.4%)	8 (9.8%)
3位	63	14 (22.2%)	8 (12.7%)	5 (7.9%)	6 (9.5%)	2 (3.2%)
合計	247	54 (52.9%)	34 (33.3%)	34 (33.3%)	23 (22.5%)	22 (21.6%)
予備試験に合格した方が就職等の面で有利であると考えたから		周りの友人や先輩等が予備試験を受験していたから	司法試験に合格するための勉強方法として、法科大学院で勉強するよりも予備試験対策の勉強をする方が、効率が良いと考えたから	既に社会で十分な経験を積んでおり、必ずしも法科大学院で学ぶ必要性を感じなかったから	法科大学院に進学したものの、経済的余裕が十分ではなく、法科大学院を修了した上で司法試験に合格することが困難であると思われたから	その他
1位	4 (3.9%)	5 (4.9%)	6 (5.9%)	3 (2.9%)	2 (2.0%)	13 (12.7%)
2位	5 (6.1%)	4 (4.9%)	4 (4.9%)	3 (3.7%)	2 (2.4%)	1 (1.2%)
3位	12 (19.0%)	7 (11.1%)	5 (7.9%)	1 (1.6%)	0 (0.0%)	3 (4.8%)
合計	21 (20.6%)	16 (15.7%)	15 (14.7%)	7 (6.9%)	4 (3.9%)	17 (16.7%)

※1位～3位の合計における割合は、回答者数に占める合計の回答数の割合(割合=合計の回答数/回答者数(102人))



付録

第2 6「予備試験の受験時期」において、「その他」と答えた者の具体的な内容

○法科大学院修了後【3回答】

第2 7「予備試験を受験した理由」において、「その他」と答えた者の具体的な内容

○なんとなく【4回答】

○司法試験受験資格喪失による再度の受験資格取得のため【3回答】

第3 1「予備試験受験時の職業等」において、「その他」と答えた者の具体的な内容

○アルバイト【2回答】

第3 3「最終学歴」において、「その他」と答えた者の具体的な内容

○大学休学中【1回答】

第3 7「予備試験を受験した理由」において、「その他」と答えた者の具体的な内容

○法科大学院修了後、司法試験を3回落ち、受験資格を喪失したため【2回答】

○大学を中退したため、法科大学院に入学できないと思っていたため【1回答】

○会社を辞めずに司法試験を受けたかったため【1回答】

○2回司法試験に落ちたため【1回答】

○妻が専業主婦、かつ、子どもがいるため、時間的に法科大学院に通う余裕がなかったため【1回答】

○法科大学院の通学は、時間的にも困難であったため【1回答】

○法科大学院の中退を考えていたため【1回答】

○法科大学院制度は不要と考えており、利用しなくなかったため【1回答】

○司法試験の負担から早く解放され、自由な学習をしたかったため【1回答】

司法試験予備試験に関するアンケート

法 務 省

このアンケートは、第69期司法修習生の方を対象としています。

法務省では、平成27年6月30日付け法曹養成制度改革推進会議決定を踏まえ、司法試験予備試験（以下、「予備試験」といいます。）制度の在り方について必要な検討を進めているところです。このアンケートは、予備試験の受験状況等の実態を把握することを目的としており、予備試験制度の在り方の検討に活用させていただきます。

結果については、個人が特定できないように集計いたします。

また、このアンケートの最後には、自由記載欄を設けておりますので、現在の法曹養成制度に対する御意見を御自由に御記載ください。

御協力をお願いいたします。

問1 年齢について、当てはまる番号を1つ選び、○で囲んでください。
(平成28年8月末日現在)

- 1 22歳以下
- 2 23歳
- 3 24歳
- 4 25歳～29歳
- 5 30歳～34歳
- 6 35歳～39歳
- 7 40歳～44歳
- 8 45歳～49歳
- 9 50歳～54歳
- 10 55歳以上

問2 性別について、当てはまる番号を1つ選び、○で囲んでください。

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

問3 司法試験に合格したときの状況について、当てはまる番号を1つ選び、○で囲んでください。

- 1 予備試験合格資格は有しておらず、法科大学院修了資格で合格した
(→問4へ)
- 2 予備試験合格資格も有しているが、法科大学院修了資格で合格した
(→問4へ)
- 3 法科大学院修了資格は有しておらず、予備試験合格資格で合格した
(→問5へ)
- 4 法科大学院修了資格も有しているが、予備試験合格資格で合格した
(→問5へ)
- 5 1～4以外(旧司法試験に合格した)(→終わりです)

※御意見はアンケートの最後へ

問4 問3で「1 予備試験合格資格は有しておらず，法科大学院修了資格で合格した」「2 予備試験合格資格も有しているが，法科大学院修了資格で合格した」を選択した方にお聞きします。

(1) 司法試験合格の際の受験資格を取得した法科大学院名を教えてください。

※ 複数の法科大学院に行かれた方は，以下の法科大学院に関する質問には，ここで回答された法科大学院を前提にお答えください。

法科大学院

(2) 未修，既修の別について，当てはまる番号を1つ選び，○で囲んでください。

1 未修	2 既修
------	------

(3) 法科大学院を修了した年及び月を教えてください。

平成	年	月
----	---	---

(4) 司法試験に合格した年を教えてください。

平成	年（9月）
----	-------

(5) 予備試験を受験したことがありますか。当てはまる番号を1つ選び，○で囲んでください。

- | |
|---------------------|
| 1 受験したことがある（→(6)へ） |
| 2 受験したことがない（→終わりです） |

※御意見はアンケートの最後へ

(6) (5)で「1 受験したことがある」を選択した方にお聞きします。

① 予備試験を何回受験しましたか（1回～4回）。

回

- ② 予備試験をいつ受験しましたか。当てはまる番号を○で囲んでください。
複数回受験された方は、受験した際の属性すべてに○をつけてください。

- | | | |
|----|--------------------|---|
| 1 | 大学1年生のとき | |
| 2 | 大学2年生のとき | |
| 3 | 大学3年生のとき | |
| 4 | 大学4年生のとき | |
| 5 | 法科大学院1年次（未修）のとき | |
| 6 | 法科大学院2年次（未修・既修）のとき | |
| 7 | 法科大学院3年次（未修・既修）のとき | |
| 8 | 法科大学院以外の大学院生のとき | |
| 9 | 社会人のとき | |
| 10 | 無職のとき | |
| 11 | その他（具体的に | ） |

- ③ 予備試験を受験した理由について、当てはまるものを3つまで選び、要因として強い順に1位～3位まで順位を付けて番号でお答えください（1位のみ、2位まででも可）。

なお、複数回予備試験を受験し、受験理由が、その時々で変化している場合には、最後に受験したときの気持ちを思い出してお答えください。

- | | | |
|----|---|---|
| 1 | 法科大学院に進学したものの、経済的余裕が十分ではなく、法科大学院を修了した上で司法試験に合格することが困難であると思われたから | |
| 2 | 経済的に法科大学院に通うことは可能であったが、経済的負担を少しでも軽減したかったから | |
| 3 | 少しでも早く法曹資格を取得し、実務に就きたかったから | |
| 4 | 法曹になるためには、必ずしも法科大学院で学ぶ必要はないと考えたから | |
| 5 | 司法試験に合格するための勉強方法として、法科大学院で勉強するよりも、予備試験対策の勉強をする方が、効率が良いと考えたから | |
| 6 | 既に社会で十分な経験を積んでおり、必ずしも法科大学院で学ぶ必要性を感じなかったから | |
| 7 | 自分に適性があるか見極めたり、実力を試したり、司法試験の雰囲気を知るためには有効であると考えたから | |
| 8 | 予備試験に合格した方が就職等の面で有利であると考えたから | |
| 9 | 周りの友人や先輩等が予備試験を受験していたから | |
| 10 | その他（例：親族などの周囲の者の勧め） | |
| | （具体的に | ） |

1 位

2 位

3 位

（終わりです）

※御意見はアンケートの最後へ

問5 問3で「3 法科大学院修了資格は有しておらず、予備試験合格資格で合格した」「4 法科大学院修了資格も有しているが、予備試験合格資格で合格した」を選択した方にお聞きします。

(1) 予備試験受験時の職業等について、当てはまる番号を1つ選び、○で囲んでください。

※ 複数回予備試験を受験している場合は、司法試験合格の際の受験資格を取得した予備試験の際の状況をお答えください。

- | | |
|----------------|---|
| 1 大学生 | |
| 2 法科大学院生 | |
| 3 法科大学院以外の大学院生 | |
| 4 公務員 | |
| 5 教職員 | |
| 6 会社員 | |
| 7 法律事務所事務員 | |
| 8 自営業 | |
| 9 無職 | |
| 10 その他（具体的に | ） |

(2) 予備試験受験時以前の社会人経験について、当てはまる番号を選び、○で囲んでください（複数回答可）。当てはまる番号がない方は、「7 該当なし」に○をつけてください。

- | | |
|------------------------|---|
| 1 公務員経験がある | |
| 2 教職員経験がある | |
| 3 会社員経験がある | |
| 4 法律事務所事務員経験がある | |
| 5 自営業経験がある | |
| 6 1～5に類するその他社会人経験（具体的に | ） |
| 7 該当なし | |

(3) 最終学歴について、当てはまる番号を1つ選び、○で囲んでください。

- | | |
|-----------------|---|
| 1 高校卒業 | |
| 2 大学中退 | |
| 3 大学卒業 | |
| 4 法科大学院中退 | |
| 5 法科大学院修了 | |
| 6 法科大学院以外の大学院中退 | |
| 7 法科大学院以外の大学院修了 | |
| 8 その他（具体的に | ） |

(4) (3)で「2 大学中退」「3 大学卒業」を選択した方にお聞きします。大学名及び学部を教えてください。

大学	学部
----	----

(5) (3)で「4 法科大学院中退」「5 法科大学院修了」を選択した方にお聞きします。

① 法科大学院名を教えてください。

法科大学院

② 未修，既修の別について，当てはまる番号を1つ選び，○で囲んでください。

1 未修	2 既修
------	------

③ 法科大学院を中退・修了した年及び月を教えてください。

平成	年	月
----	---	---

(6) 予備試験に合格した年を教えてください。

平成	年（1 1月）
----	---------

(7) 司法試験に合格した年を教えてください。

平成	年（9月）
----	-------

(8) 予備試験を何回受験しましたか（1回～4回）。

回

(9) 予備試験をいつ受験しましたか。当てはまる番号を○で囲んでください。複数回受験した方は，受験した際の属性すべてに○をつけてください。

1 大学1年生のとき
2 大学2年生のとき
3 大学3年生のとき
4 大学4年生のとき
5 法科大学院1年次（未修）のとき
6 法科大学院2年次（未修・既修）のとき
7 法科大学院3年次（未修・既修）のとき
8 法科大学院以外の大学院生のとき
9 社会人のとき
10 無職のとき
11 その他（具体的に

(10) 予備試験を受験した理由について、当てはまるものを3つまで選び、要因として強い順に1位～3位まで順位を付けて番号でお答えください（1位のみ、2位まででも可）。

なお、複数回予備試験を受験し、受験理由が、その時々で変化している場合には、最後に受験したときの気持ちを思い出してお答えください。

- 1 経済的余裕が十分ではなく、法科大学院への進学が困難であったから
- 2 法科大学院に進学したものの、経済的余裕が十分ではなく、法科大学院を修了した上で司法試験に合格することが困難であると思われたから
- 3 経済的に法科大学院に通うことは可能であったが、経済的負担を少しでも軽減したかったから
- 4 少しでも早く法曹資格を取得し、実務に就きたかったから
- 5 法曹になるためには、必ずしも法科大学院で学ぶ必要はないと考えたから
- 6 司法試験に合格するための勉強方法として、法科大学院で勉強するよりも、予備試験対策の勉強をする方が、効率が良いと考えたから
- 7 既に社会で十分な経験を積んでおり、必ずしも法科大学院で学ぶ必要性を感じなかったから
- 8 自分に適性があるか見極めたり、実力を試したり、司法試験の雰囲気を知るためには有効であると考えたから
- 9 予備試験に合格した方が就職等の面で有利であると考えたから
- 10 周りの友人や先輩等が予備試験を受験していたから
- 11 その他（例：親族などの周囲の者の勧め）
（具体的に _____ ）

1 位

2 位

3 位

（終わりです）

自由記載欄

※ 現在の法曹養成制度に対する御意見を御自由に御記載ください。

御協力ありがとうございました。